

平成23年度(5)

# 県政モニター アンケート報告書

テーマ「国際化の推進」

平成24年 1 月

# も く じ

調査の概要 .....	1
-------------	---

## 調査結果

1 海外への魅力の発信 .....	3
2 国際交流・国際協力 .....	7
3 グローバル化する産業への対応 .....	9
4 国際化を担う人材 .....	11
5 多文化共生社会 .....	18
6 国際化の推進 .....	31
7 自由意見 .....	33

質問と回答 .....	39
-------------	----

# 調査の概要

## 1 調査のテーマ

国際化の推進

## 2 調査の趣旨

愛知県では、この地域が国際的な魅力にあふれ、人々が国籍を問わず生き生きと活躍し、持続的な発展を遂げていくための指針として、「アジアのあいち、世界のあいち」を基本目標とした「あいちグローバルプラン」と、「多文化共生社会の形成による豊かで活力ある地域づくり」を基本目標とした「あいち多文化共生プラン」を平成20年3月に策定し、地域の国際化や多文化共生社会の形成の推進に努めてまいりました。

特に、昨年度は、地域を挙げて取り組んだ「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」や「あいちトリエンナーレ2010」が成功裏に行われ、大きな成果をあげることができました。

近年、グローバル化の一層の進展による、県内企業の海外展開や国際的に活躍できる人材の育成・確保、外国人住民との共生等の様々な課題に対する新たな取組が必要となっております。こうしたことから、本県の国際化の進展や多文化共生社会の形成の推進に関する今後の施策の検討や見直しを行うため、県政モニターの皆様にご意見をお聞きしました。

## 3 調査対象

県政モニター 496人（平成23年10月18日現在）

内訳

区 分	計		名古屋地域	尾張地域	三河地域	
	人 員	構 成 比				
総 数	496人	100.0%	155人	188人	153人	
性 別	男 性	248	50.0	76	92	80
	女 性	248	50.0	79	96	73
年 代 別	20 代	77	15.5	27	26	24
	30 代	100	20.2	29	37	34
	40 代	88	17.7	28	33	27
	50 代	74	14.9	19	29	26
	60 代 以上	157	31.7	52	63	42

## 4 調査期間

平成23年10月3日から平成23年10月18日まで

## 5 調査方法

郵送・インターネット（選択）

## 6 回答者数

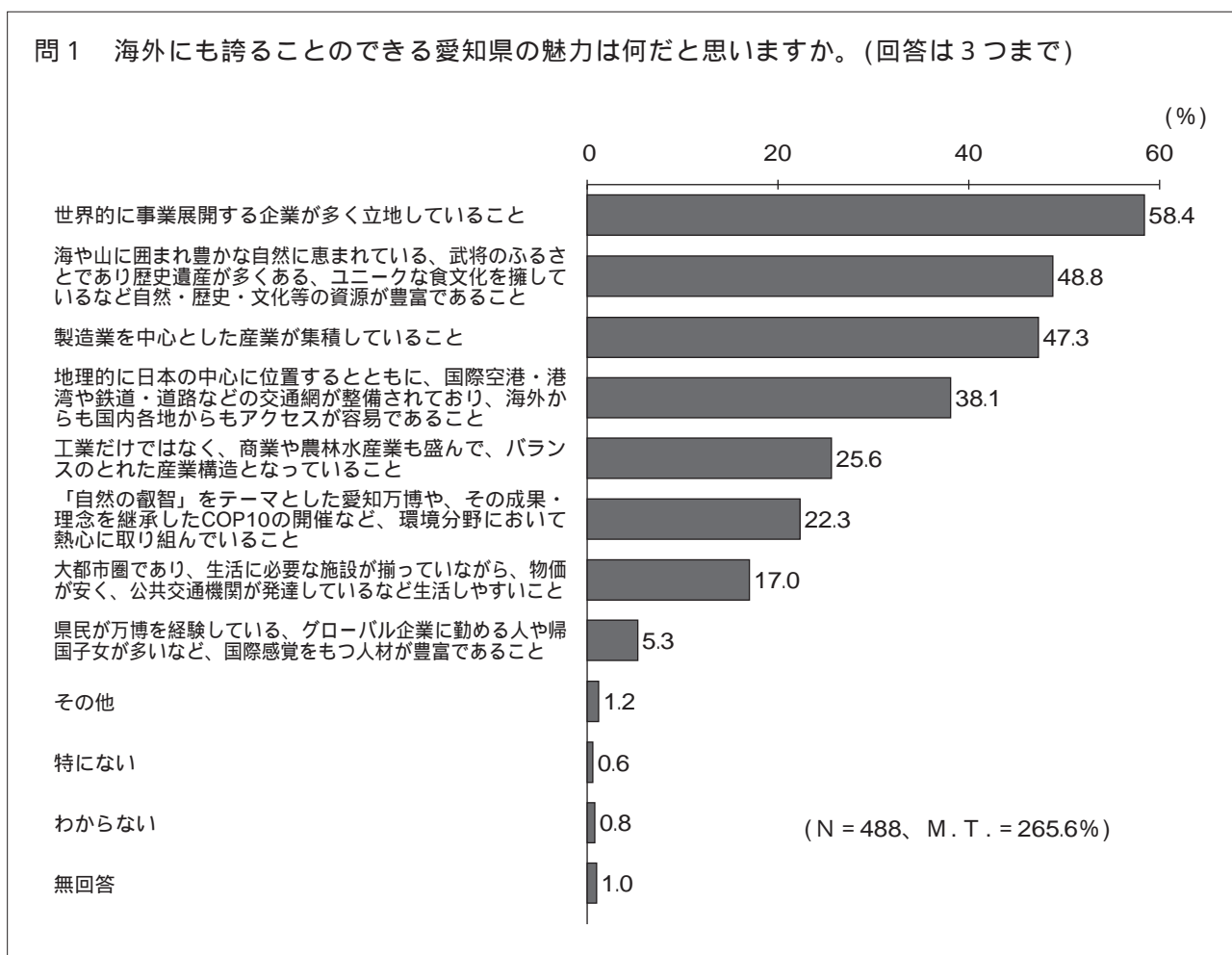
488人（回収率98.4%）

### 【記号・符号・用語の説明】

- (1) N (Number of Cases の略) は比例算出の基数であり、100%が何人の回答者に相当するかを示す。
- (2) M. T. (Multiple Total) は複数回答を認める質問に対する回答の比率の合計を示す。(無回答者の数値は含まない。)
- (3) 回答が1つの質問であっても、小数第2位を四捨五入して割合を求めているため、合計が100%にならないことがある。

# 調査結果

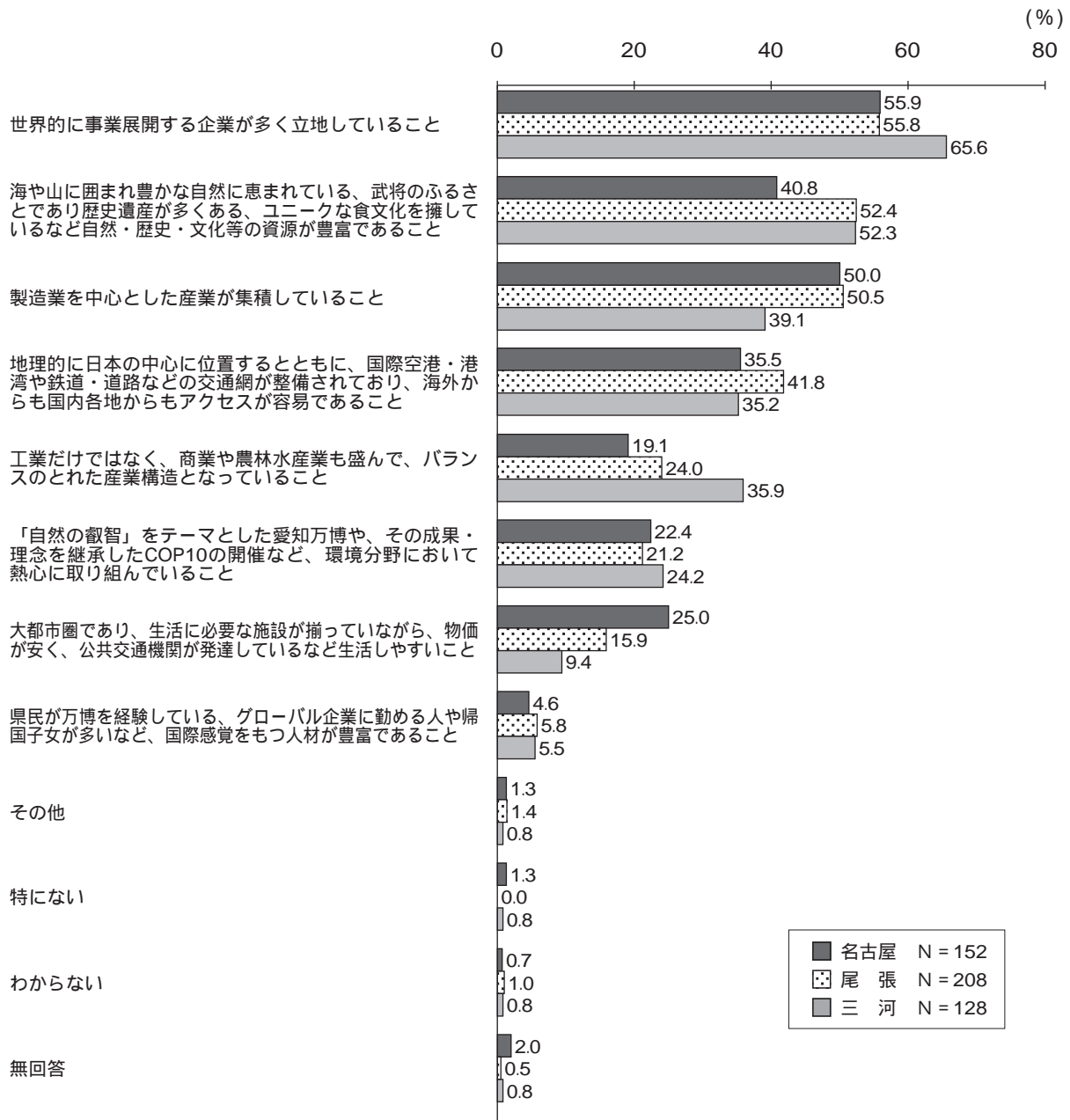
## 1 海外への魅力の発信



海外にも誇ることでできる愛知県の魅力は何だと思うか尋ねたところ、「世界的に事業展開する企業が多く立地していること」が58.4%、「海や山に囲まれ豊かな自然に恵まれている、武将のふるさとであり歴史遺産が多くある、ユニークな食文化を擁しているなど自然・歴史・文化等の資源が豊富であること」が48.8%、「製造業を中心とした産業が集積していること」が47.3%、「地理的に日本の中心に位置するとともに、国際空港・港湾や鉄道・道路などの交通網が整備されており、海外からも国内各地からもアクセスが容易であること」が38.1%などとなっている。

地域別にみると、「世界的に事業展開する企業が多く立地していること」と答えた人の割合は、三河地域で高く、「地理的に日本の中心に位置するとともに、国際空港・港湾や鉄道・道路などの交通網が整備されており、海外からも国内各地からもアクセスが容易であること」と答えた人の割合は尾張地域で高かった。

(地域別)

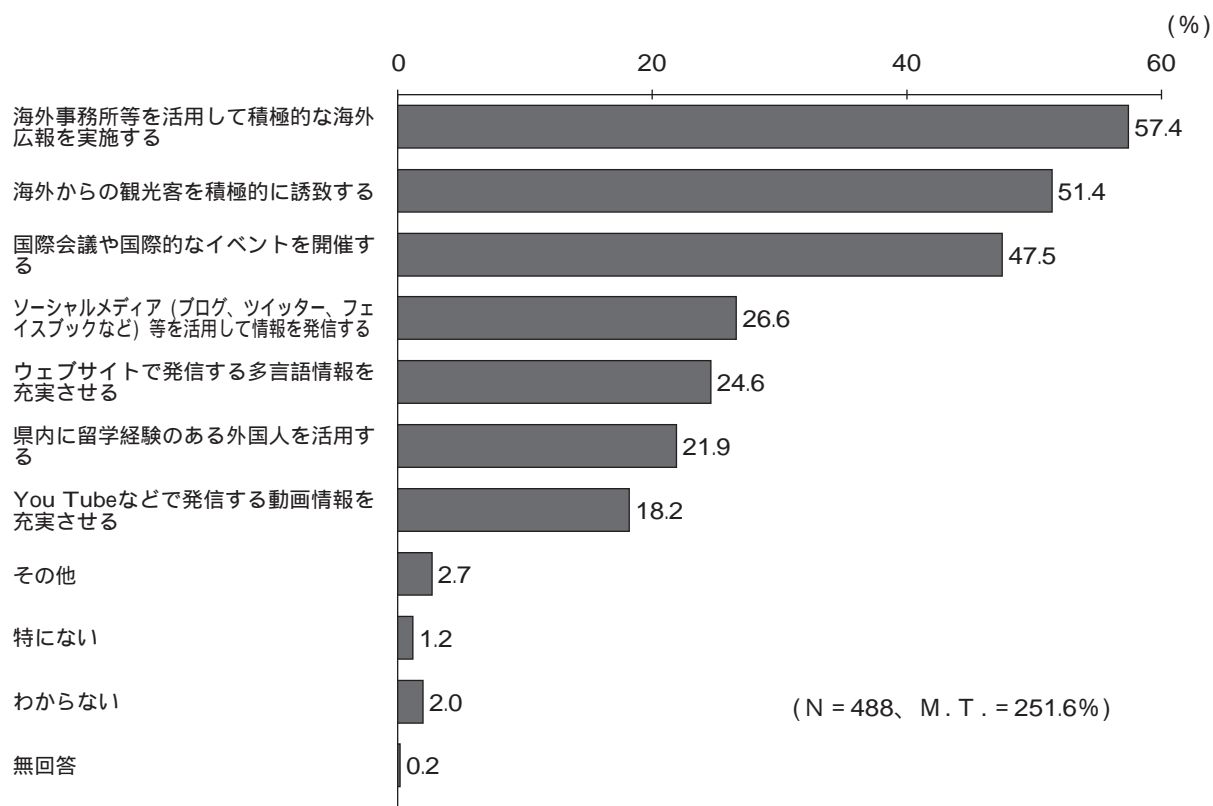


グローバル企業の立地の他にも、豊富な自然・歴史・文化資源、産業の集積、交通アクセスの利便性等が、愛知県の魅力として捉えられていることが分かりました。

これら産業力、経済力、文化力、地域力など、県民の皆様が考える愛知県の魅力を、今後ますます高める取組を進めていきたいと考えています。

(地域振興部国際課)

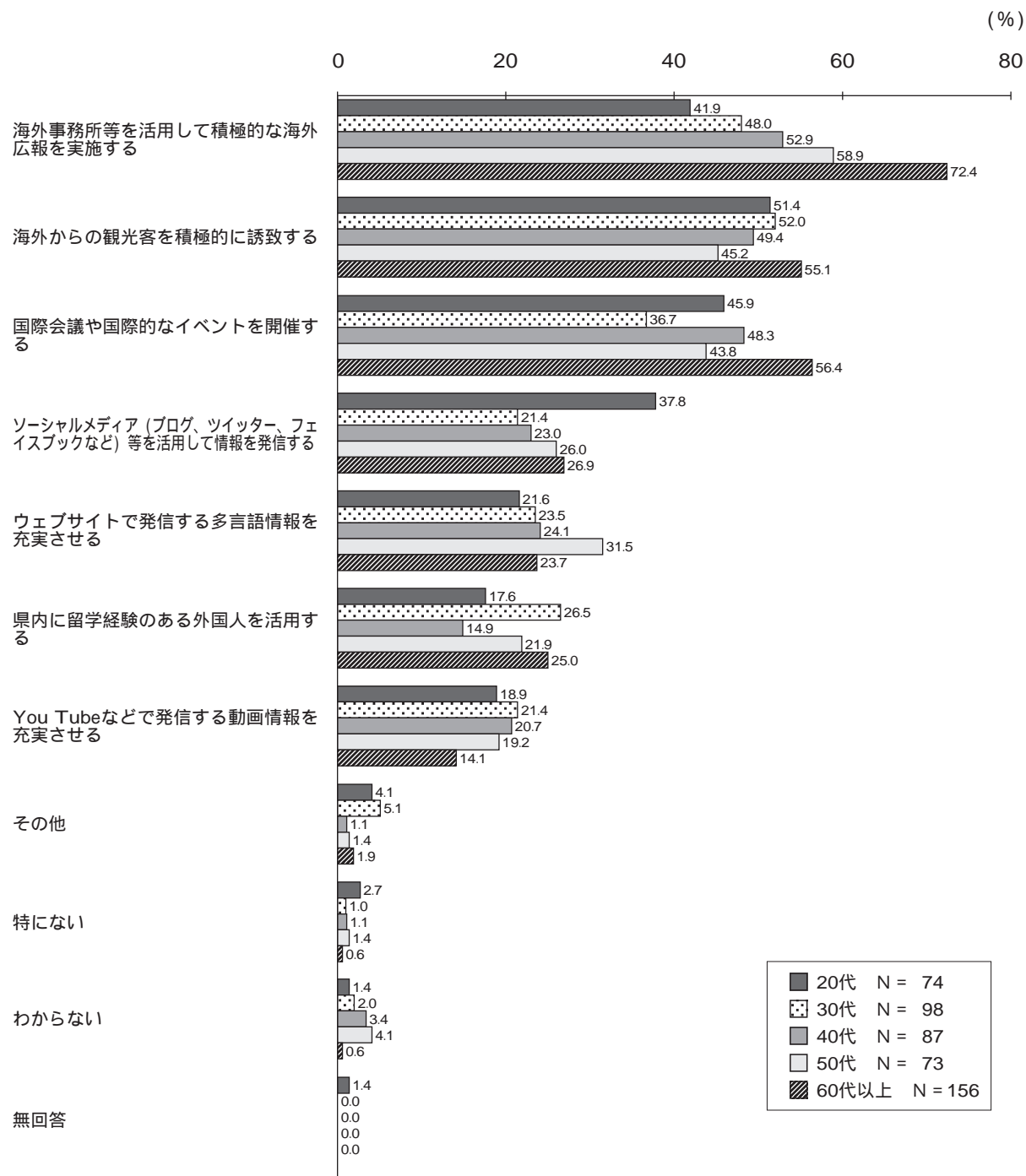
問2 問1で答えていただいた、愛知県の魅力を海外にPRするには、どのような方法がよいと思いますか。(回答は3つまで)



愛知県の魅力を海外にPRするには、どのような方法がよいと思うか尋ねたところ、「海外事務所等を活用して積極的な海外広報を実施する」が57.4%、「海外からの観光客を積極的に誘致する」が51.4%、「国際会議や国際的なイベントを開催する」が47.5%、「ソーシャルメディア (ブログ、ツイッター、フェイスブックなど) 等を活用して情報を発信する」が26.6%などとなっている。

年代別にみると、20代、30代では「海外からの観光客を積極的に誘致する」と答えた人の割合が最も高く、40代以上では「海外事務所等を活用して積極的な海外広報を実施する」と答えた人の割合が最も高くなっている。

(年代別)



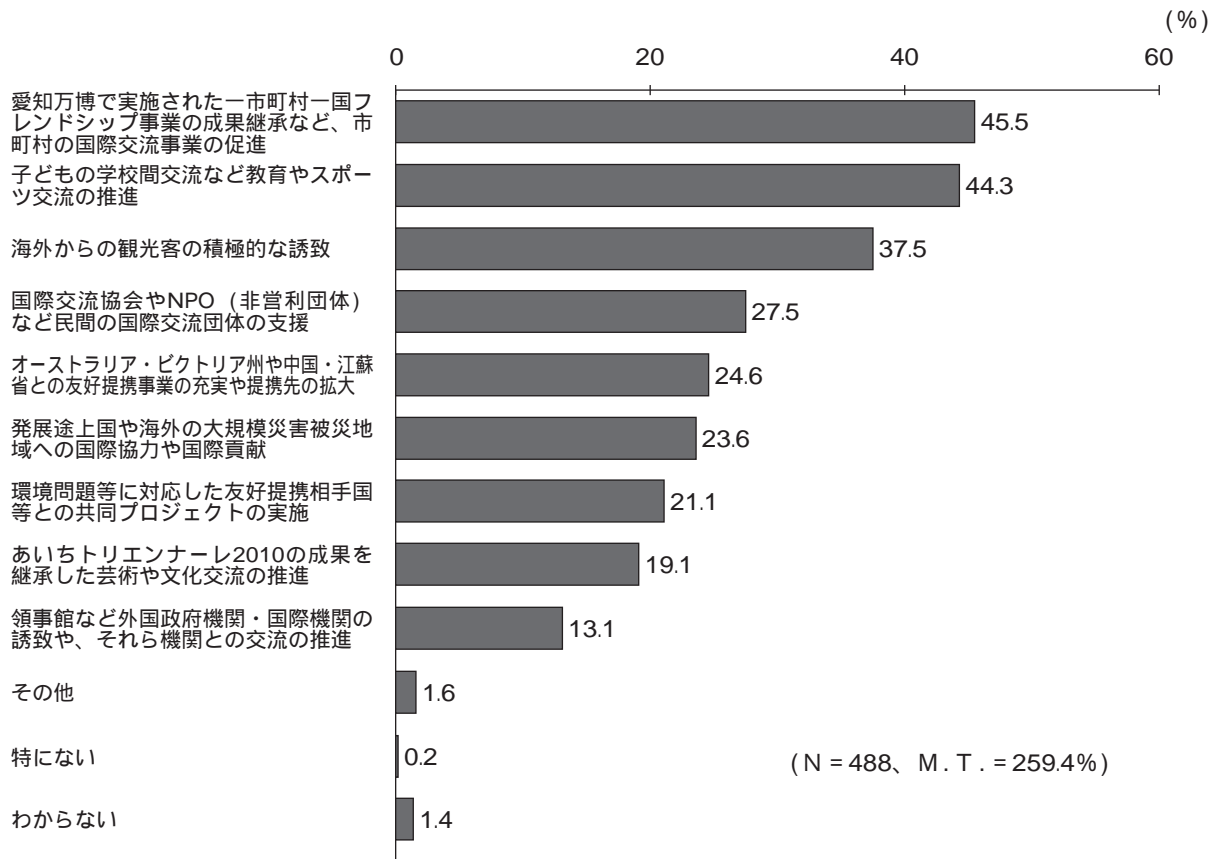
情報化が進展し、交通手段も発達した現代では、かつてに比べて海外との心理的・時間的な距離は格段に近くなっています。海外事務所等の活用や国際イベントの開催の他にも、外国人観光客や元留学生による口コミ、ソーシャルメディア等の活用やウェブサイトの充実など多様な手段を効果的に組み合わせて、愛知県の魅力を世界に向けて発信していきたいと考えています。

(地域振興部国際課)



## 2 国際交流・国際協力

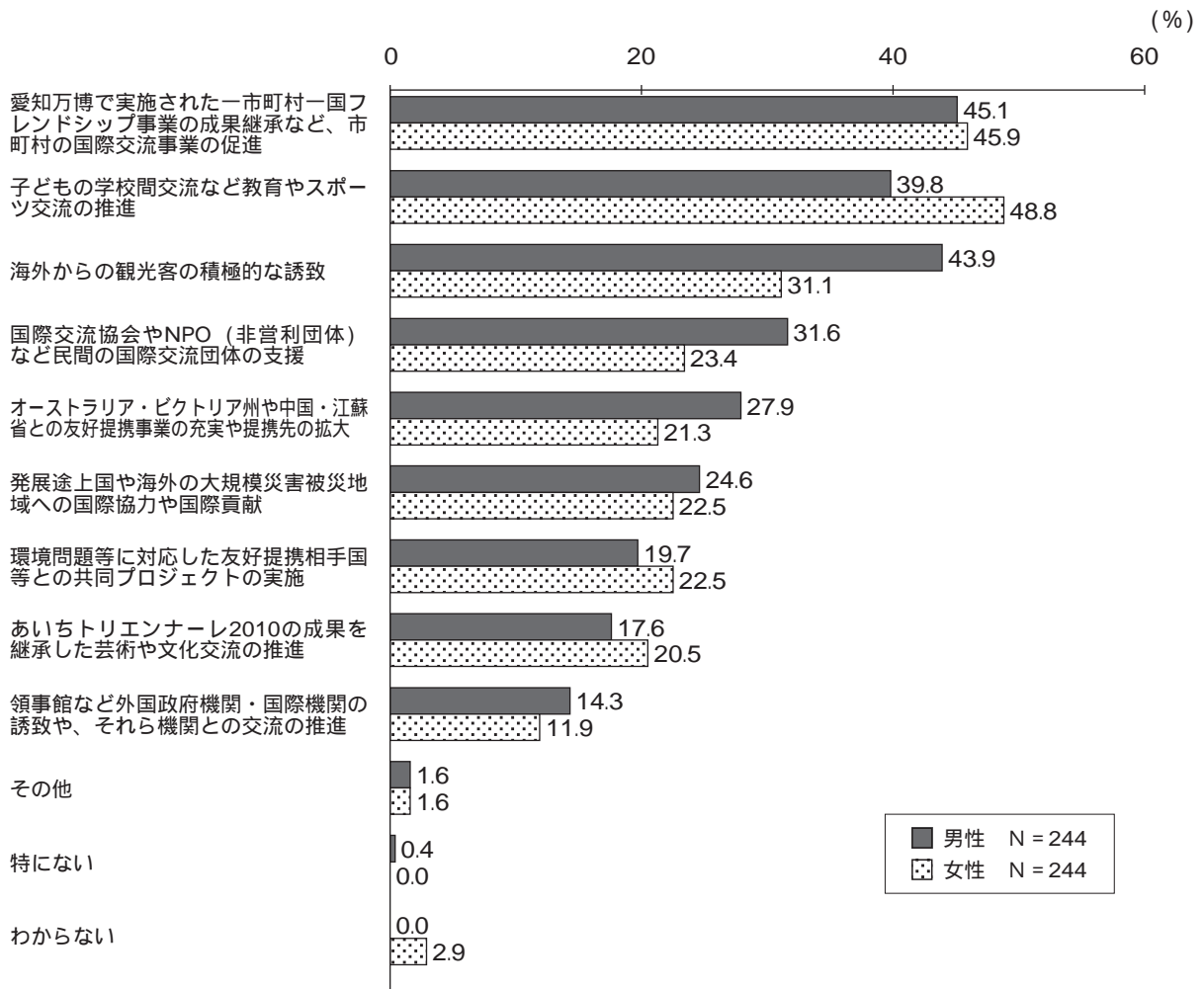
問3 愛知県が海外との交流や国際協力を行うにあたり、どの分野に重点を置くとよいと思いますか。(回答は3つまで)



愛知県が海外との交流や国際協力を行うにあたり、どの分野に重点を置くとよいと思うか尋ねたところ、「愛知万博で実施された一市町村一國フレンドシップ事業の成果継承など、市町村の国際交流事業の促進」が45.5%、「子どもの学校間交流など教育やスポーツ交流の推進」が44.3%、「海外からの観光客の積極的な誘致」が37.5%、「国際交流協会やNPO（非営利団体）など民間の国際交流団体の支援」が27.5%などとなっている。

男女別にみると、「海外からの観光客の積極的な誘致」と答えた人の割合は、女性より男性で12.8ポイント高く、「子どもの学校間交流など教育やスポーツ交流の推進」と答えた人の割合は、男性より女性で9.0ポイント高くなっている。

(男女別)

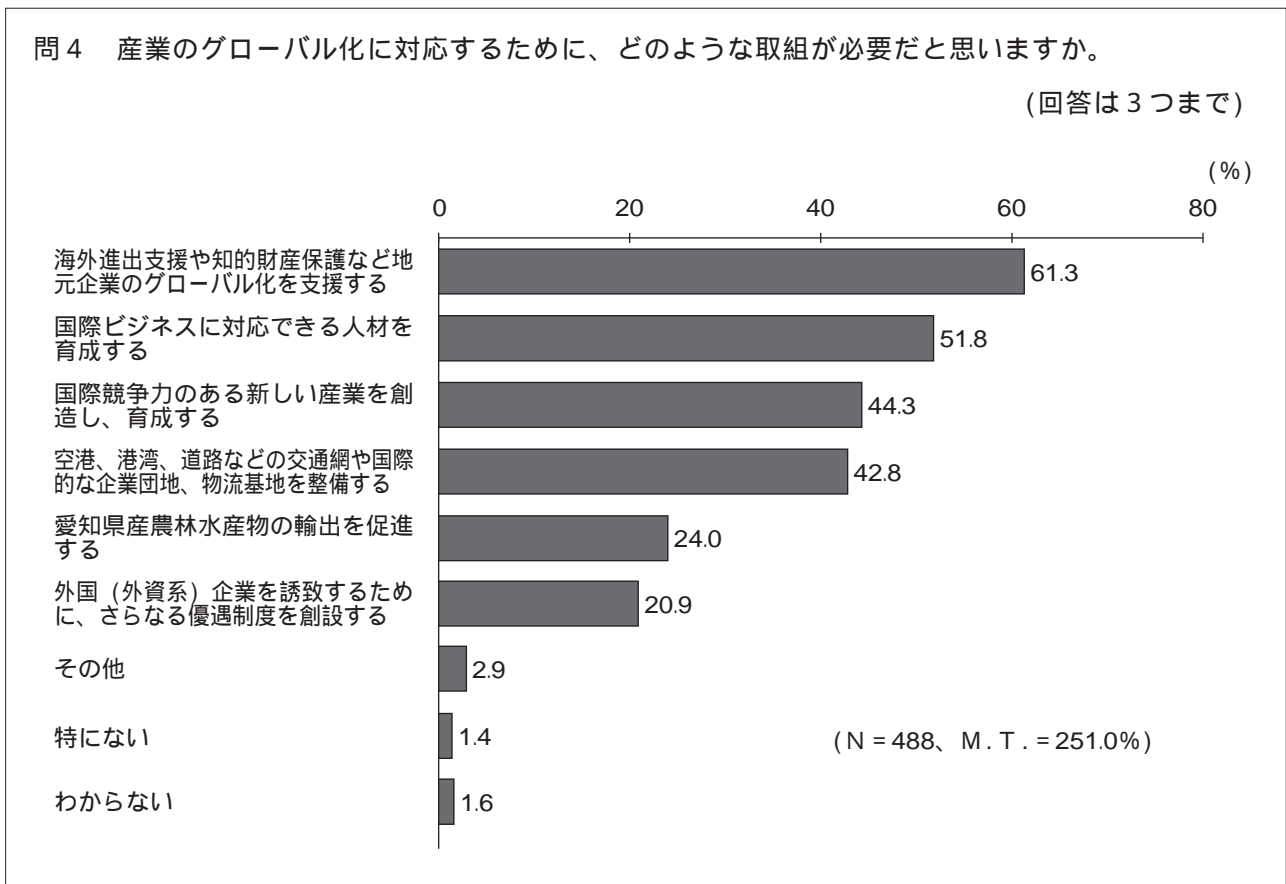


「愛知万博で実施された一市町村一國フレンドシップ事業の成果継承など、市町村の国際交流事業の促進」や「国際交流協会やNPO（非営利団体）など民間の国際交流団体の支援」と答えた方が多いことから、身近な地域での草の根の国際交流活動が望まれていることがうかがえます。また、「子どもの学校間交流など教育やスポーツ交流の推進」と答えた方が多いことから、子どもなど次代を担う若い世代の国際交流が望まれていることもうかがえます。

これらのご意見を参考に、国際交流事業のより一層の充実に努めていきます。

(地域振興部国際課)

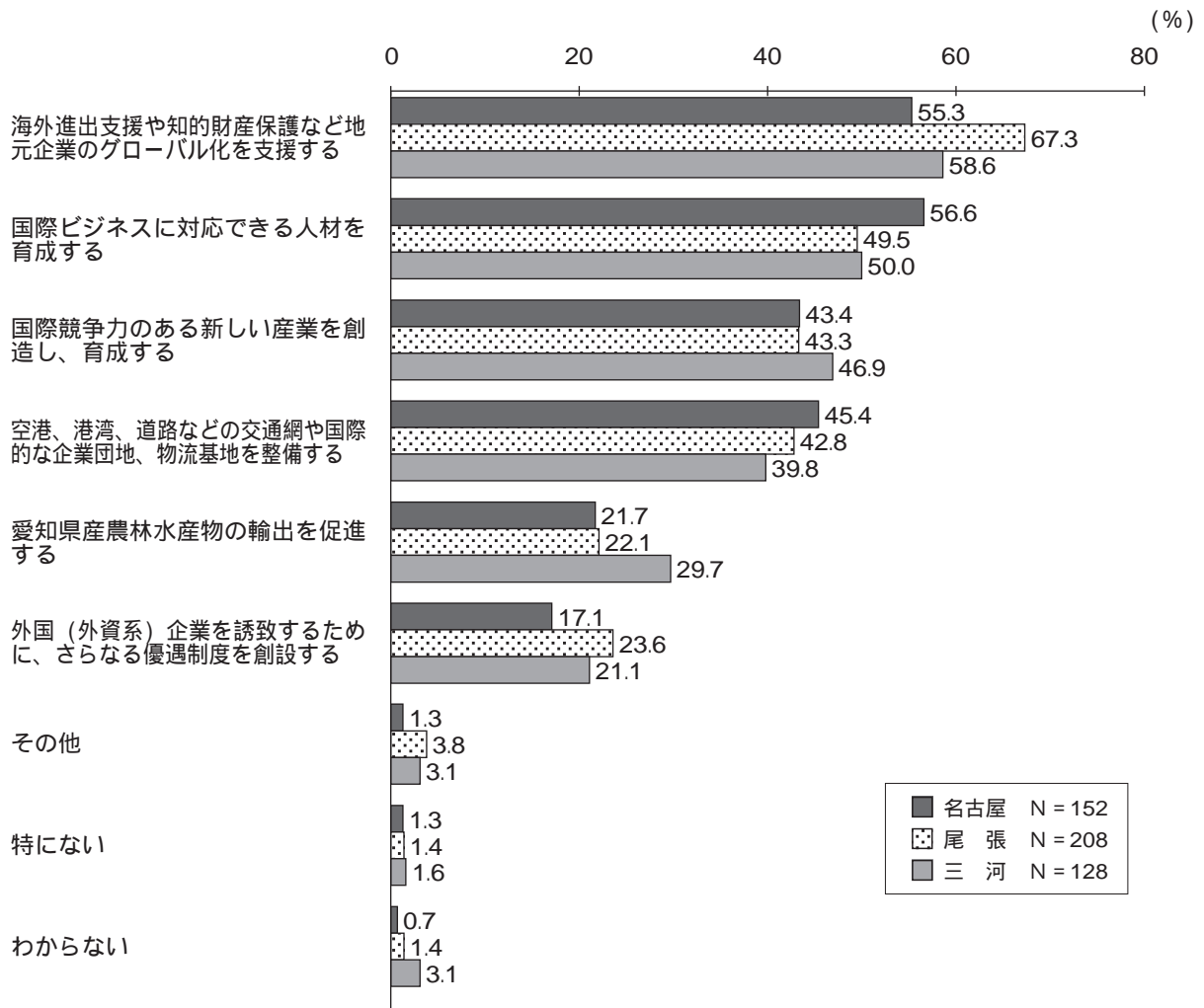
### 3 グローバル化する産業への対応



産業のグローバル化に対応するために、どのような取組が必要だと思うか尋ねたところ、「海外進出支援や知的財産保護など地元企業のグローバル化を支援する」が61.3%、「国際ビジネスに対応できる人材を育成する」が51.8%、「国際競争力のある新しい産業を創造し、育成する」が44.3%、「空港、港湾、道路などの交通網や国際的な企業団地、物流基地を整備する」が42.8%などとなっている。

地域別にみると「海外進出支援や知的財産保護など地元企業のグローバル化を支援する」と答えた人の割合は、他の地域に比べ尾張地域で高く、「国際ビジネスに対応できる人材を育成する」と答えた人の割合は、名古屋地域で高くなっている。

(地域別)



グローバル化の進展や東アジアの発展に伴い、産業の分野でもグローバル展開への対応が急務となっておりますが、「あいちグローバルプラン」では、「世界に輝く産業づくり」を目標の1つに掲げ、モノづくりで培った産業力を活かした次世代産業分野の創出やグローバルな産業活動支援のための事業を実施しています。

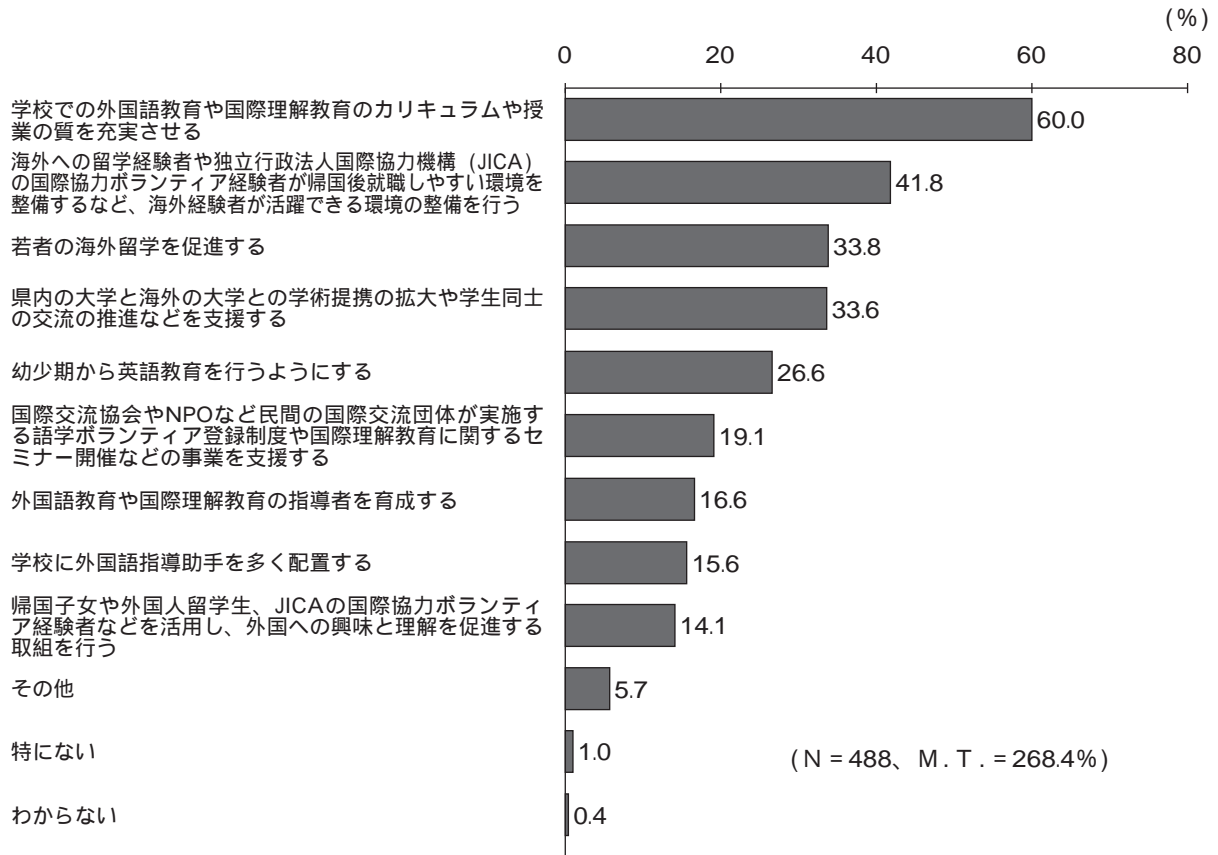
いただいたご意見を参考に、中堅・中小企業の貿易促進や海外進出の円滑化、アジア地域との経済交流の強化に取り組んでいきます。

(地域振興部国際課)

## 4 国際化を担う人材

問5 国際的に活躍できる若者を育成するためには、どのような取組が必要だと思いますか。

(回答は3つまで)

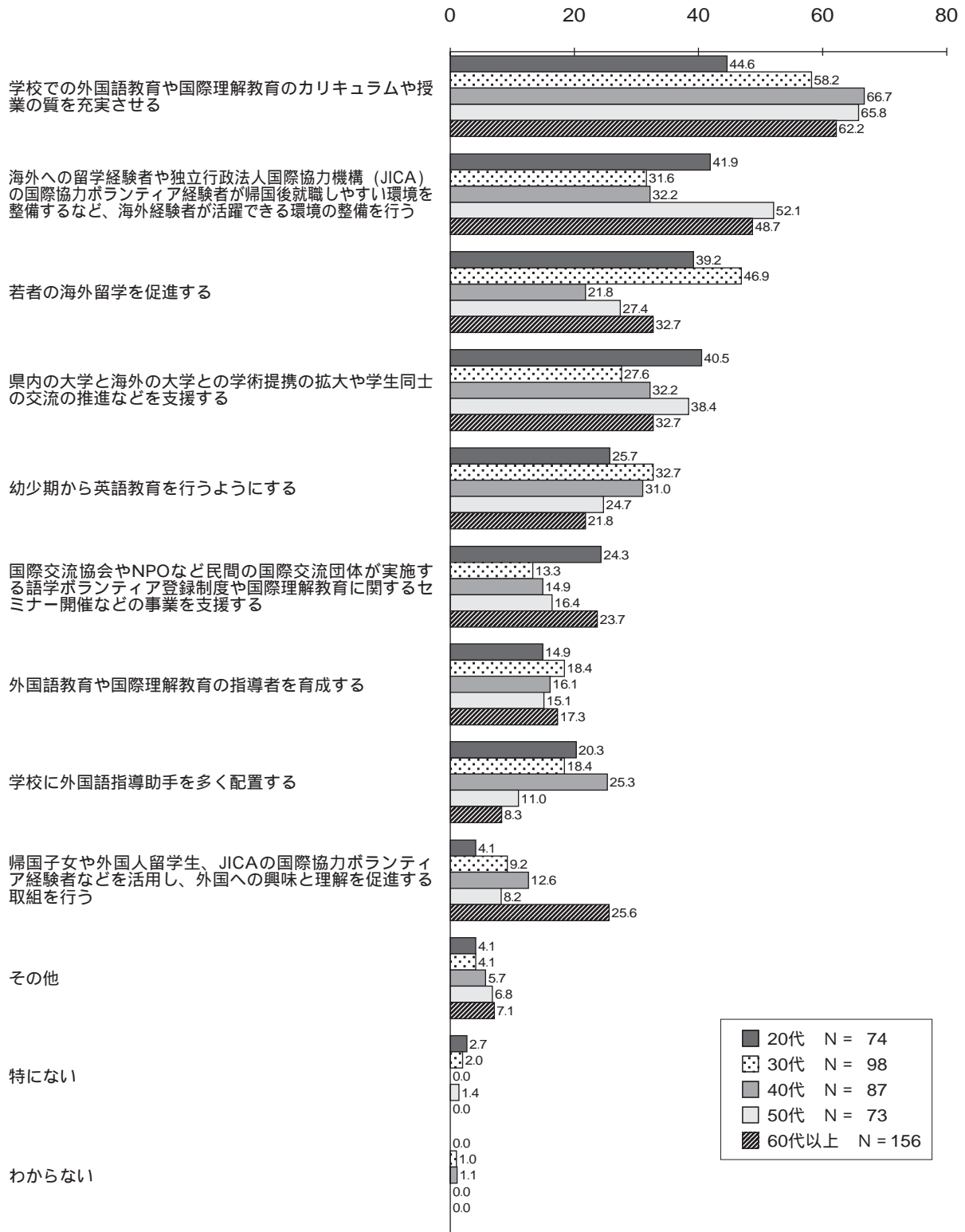


国際的に活躍できる若者を育成するためには、どのような取組が必要だと思うか尋ねたところ、「学校での外国語教育や国際理解教育のカリキュラムや授業の質を充実させる」が60.0%、「海外への留学経験者や独立行政法人国際協力機構 (JICA) の国際協力ボランティア経験者が帰国後就職しやすい環境を整備するなど、海外経験者が活躍できる環境の整備を行う」が41.8%、「若者の海外留学を促進する」が33.8%、「県内の大学と海外の大学との学術提携の拡大や学生同士の交流の推進などを支援する」が33.6%などとなっている。

年代別にみると、「学校での外国語教育や国際理解教育のカリキュラムや授業の質を充実させる」と答えた人の割合は、全ての年代で最も高かったが、20代では「海外への留学経験者や独立行政法人国際協力機構 (JICA) の国際協力ボランティア経験者が帰国後就職しやすい環境を整備するなど、海外経験者が活躍できる環境の整備を行う」、「若者の海外留学を促進する」、「県内の大学と海外の大学との学術提携の拡大や学生同士の交流の推進などを支援する」と答えた人の割合も比較的高かった。

(年代別)

(%)



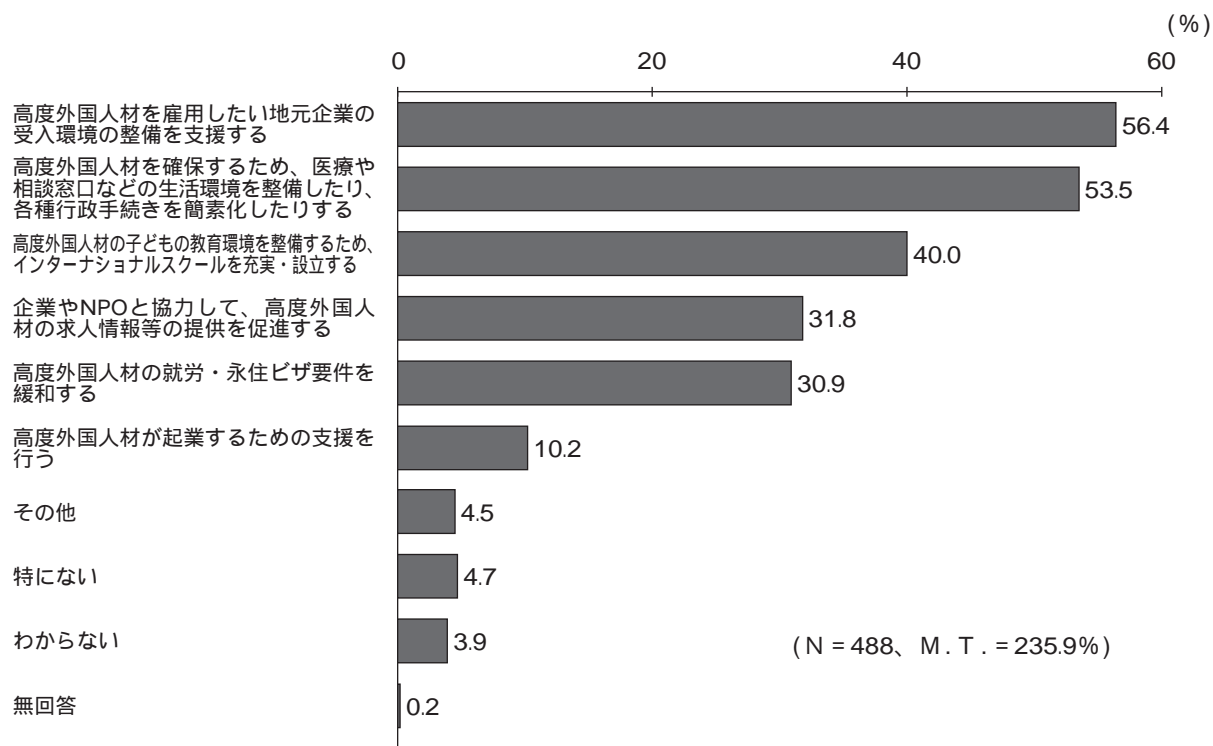
若者のための取組としては、「学校での外国語教育や国際理解教育のカリキュラムや授業の質を充実させる」と答えた方が、約6割と最も多くなっています。

「あいちグローバルプラン」では、世界で活躍する人材や地域の国際化に貢献する人材・組織を育成するため、あらゆる世代への国際理解教育の実施、小学校での外国語活動の充実、高等学校における外国語教育の充実等に取り組むこととしています。

いただいたご意見を参考に、子どもたちから地球的視野に立って主体的に行動するために必要な態度・能力を育み、世界を舞台に活躍し、信頼され、世界に貢献できる人材育成に取り組んでいきます。

(地域振興部国際課)

問6 少子高齢化により労働人口が減少する中で、日本の企業が競争力を維持するためには、高度外国人材を積極的に受け入れ、活用すべきだとの意見がありますが、どのような取組が必要だと思いますか。(回答は3つまで)

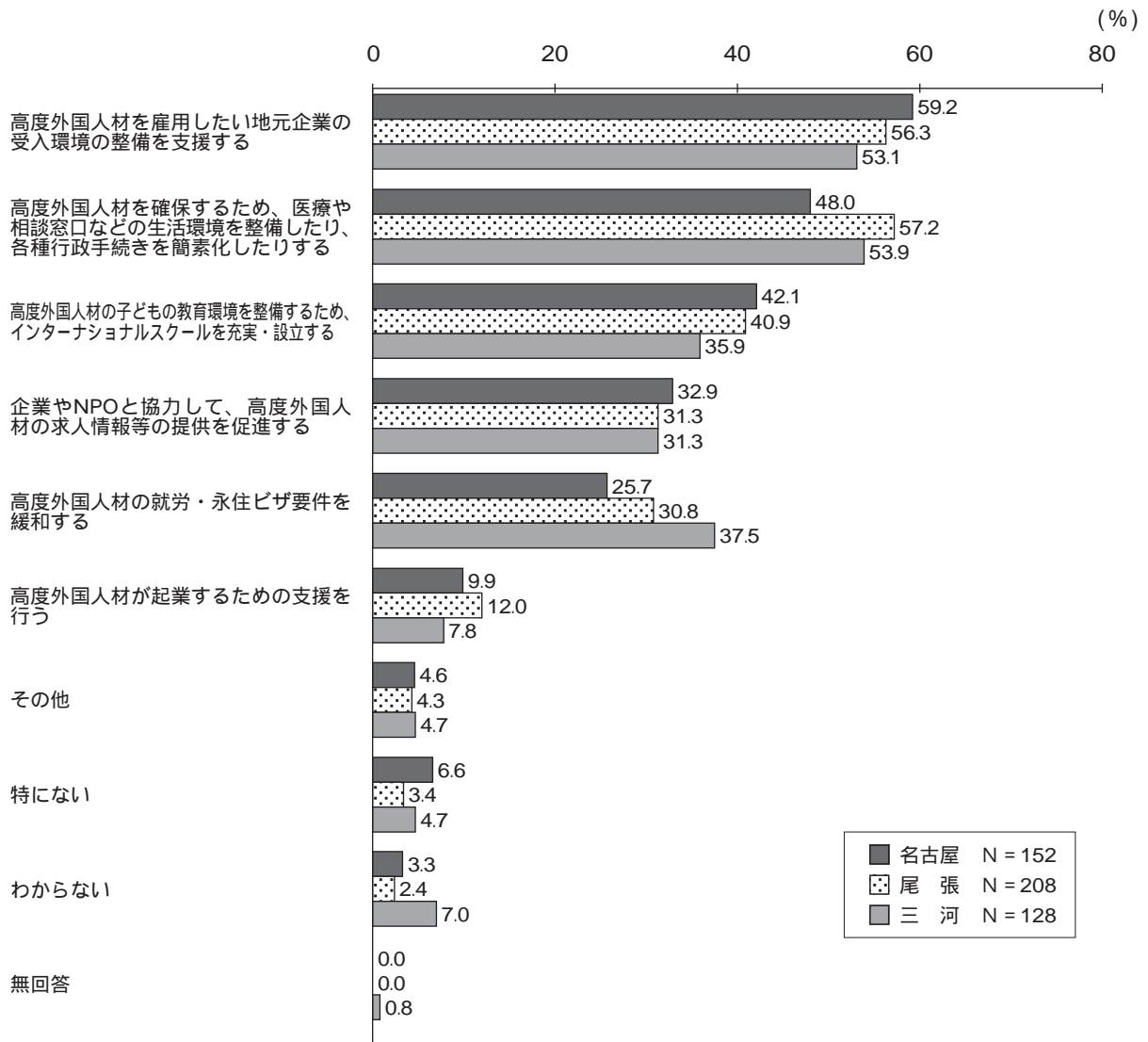


少子高齢化により労働人口が減少する中で、日本の企業が競争力を維持するためには、高度外国人材を積極的に受け入れ、活用すべきだとの意見がありますが、どのような取組が必要だと思うか尋ねたところ、「高度外国人材を雇用したい地元企業の受入環境の整備を支援する」が56.4%、「高度外国人材を確保するため、医療や相談窓口などの生活環境を整備したり、各種行政手続きを簡素化したりする」が53.5%、「高度外国人材の子どもの教育環境を整備するため、インターナショナルスクールを充実・設立する」が40.0%、「企業やNPOと協力して、高度外国人材の求人情報等の提供を促進する」が31.8%などとなっている。

地域別にみると、名古屋地域では「高度外国人材を雇用したい地元企業の受入環境の整備を支援する」と答えた人の割合が最も高く、尾張地域、三河地域では「高度外国人材を確保するため、医療や相談窓口などの生活環境を整備したり、各種行政手続きを簡素化したりする」と答えた人の割合が最も高くなっている。



(地域別)



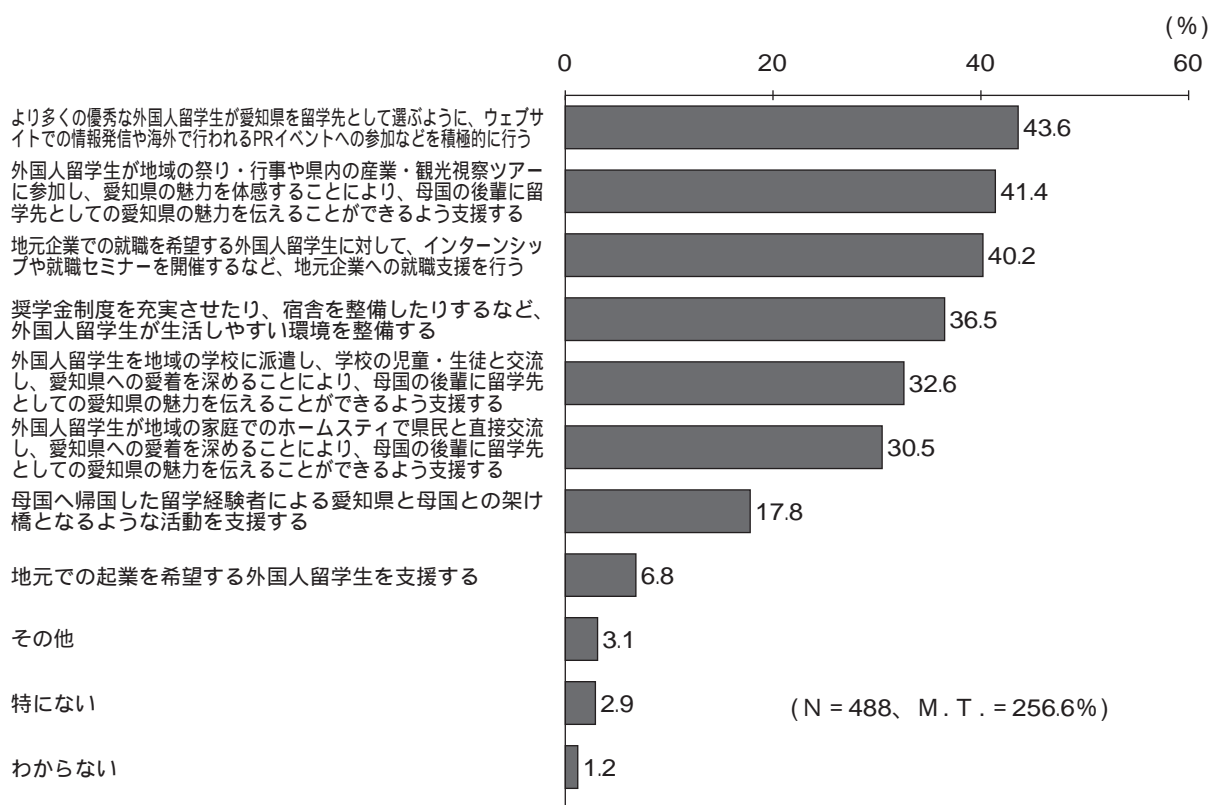
国においては、我が国の産業の活力を増強し発展させるため、世界で活躍できる日本人材の育成を基本にしながら、一方で入国要件の緩和などにより高度外国人材の受入を促進しようとしていますが、そのためには、高度外国人材を受け入れようとする企業の受入環境や地域の生活環境の整備が大切であると考えられていることが分かりました。

いただいたご意見を参考に、世界から優秀な人材を確保するための取組を進めていきます。

(地域振興部国際課)

問7 少子高齢化により労働人口が減少する中で、人的交流・経済発展の両面から、母国と日本双方の言語と文化に精通し、大学等で専門的知識・技術を習得する外国人留学生の受入を促進し、愛知県のために活躍できるようにするには、どのような取組が必要だと思いますか。

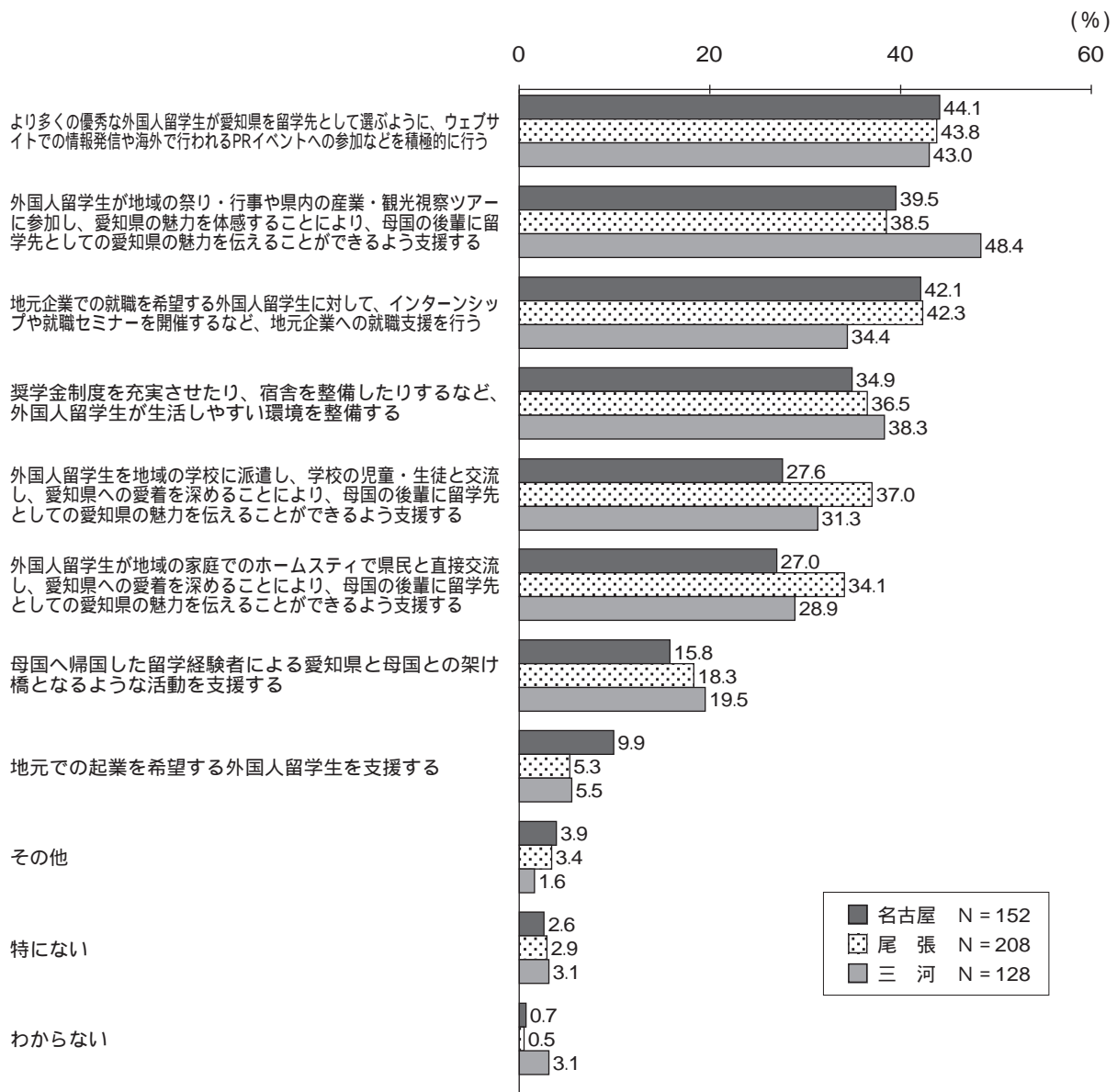
(回答は3つまで)



外国人留学生の受入を促進し、愛知県のために活躍できるようにするには、どのような取組が必要だと思うか尋ねたところ、「より多くの優秀な外国人留学生が愛知県を留学先として選ぶように、ウェブサイトでの情報発信や海外で行われるPRイベントへの参加などを積極的に行う」が43.6%、「外国人留学生が地域の祭り・行事や県内の産業・観光視察ツアーに参加し、愛知県の魅力を体感することにより、母国の後輩に留学先としての愛知県の魅力を伝えることができるよう支援する」が41.4%、「地元企業での就職を希望する外国人留学生に対して、インターンシップや就職セミナーを開催するなど、地元企業への就職支援を行う」が40.2%、「奨学金制度を充実させたり、宿舎を整備したりするなど、外国人留学生が生活しやすい環境を整備する」が36.5%などとなっている。

地域別にみると、「外国人留学生が地域の祭り・行事や県内の産業・観光視察ツアーに参加し、愛知県の魅力を体感することにより、母国の後輩に留学先としての愛知県の魅力を伝えることができるよう支援する」と答えた人の割合は、名古屋地域や尾張地域に比べ三河地域で比較的高く、「地元企業での就職を希望する外国人留学生に対して、インターンシップや就職セミナーを開催するなど、地元企業への就職支援を行う」と答えた人の割合は、名古屋地域や尾張地域で三河地域に比べ高くなっている。

(地域別)



愛知県では、優秀な外国人留學生がこの地域を留学先として選び、卒業後もこの地域で就職したり、母国との架け橋となって活躍していただくため、大学や企業とも連携しながら、奨学金や宿舎などの生活環境の整備、インターンシップや就職セミナーの開催などの就職支援、帰国した外国人留學生のネットワークづくりとその活動支援など外国人留學生を幅広く支援しています。

今後も、優秀な外国人留學生の誘致と国内就職支援、帰国後のフォロー等に力を入れながら、外国人留學生を通じた人的交流の推進や高度人材としての外国人留學生の受入の促進を図っていきます。

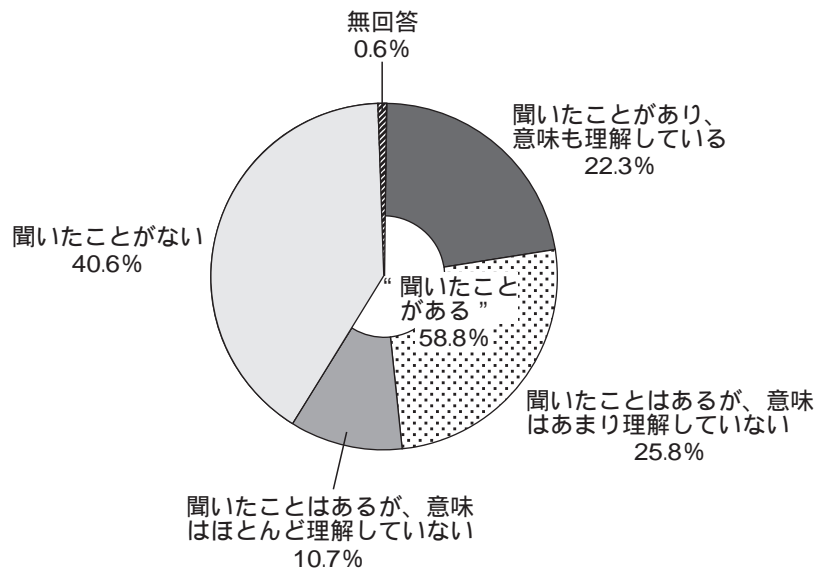
(地域振興部国際課)

## 5 多文化共生社会

問8 今までに、「多文化共生社会」という言葉を聞いたことがありますか。(回答は1つ)

多文化共生社会：国籍や民族などのちがいかかわらず、すべての県民が互いの文化的背景や考え方を理解し、ともに安心して暮らせ活躍できる地域社会

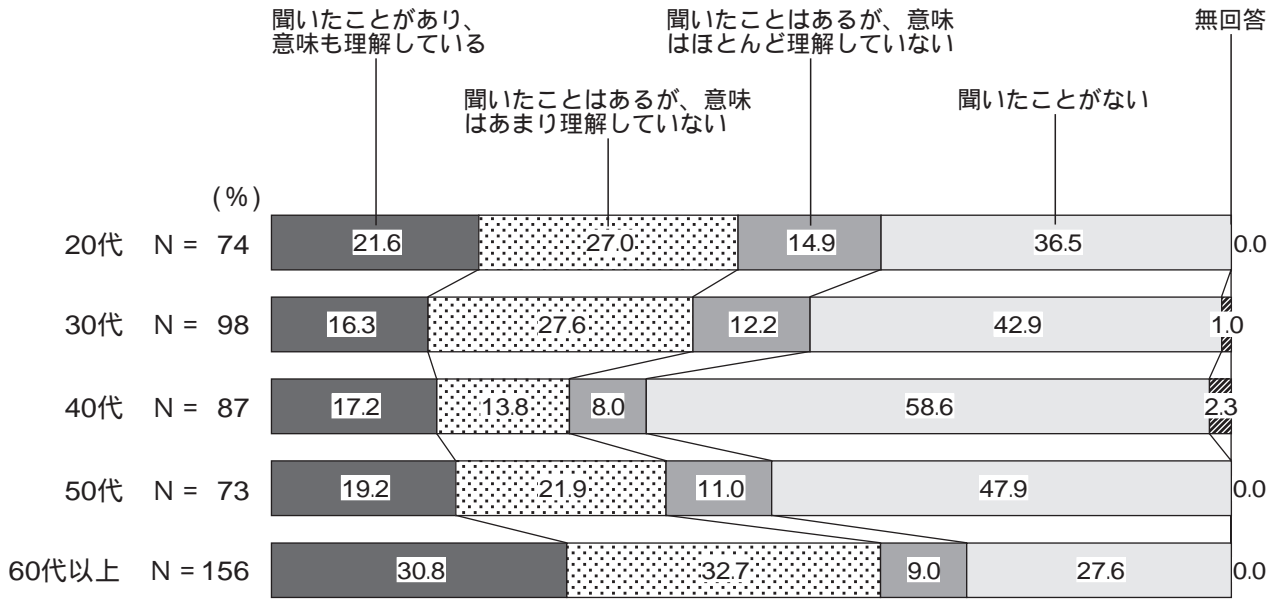
N = 488



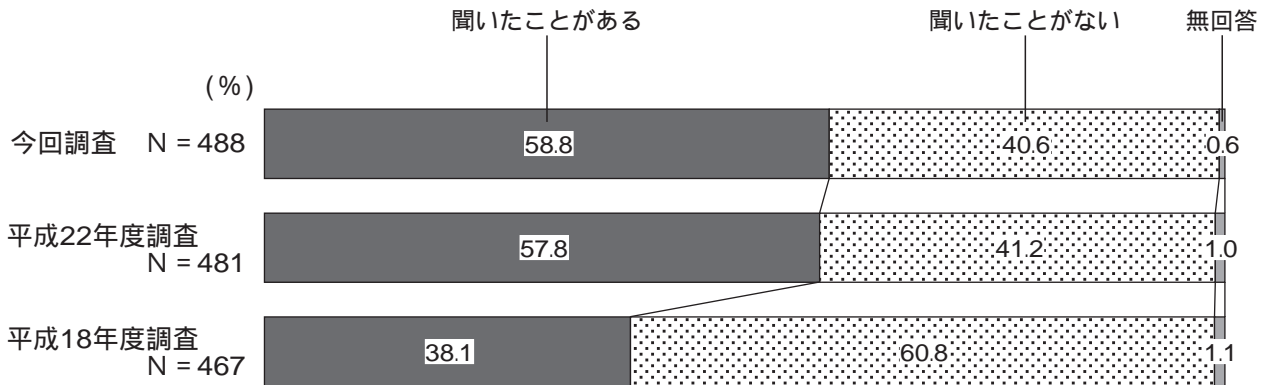
今までに、「多文化共生社会」という言葉を聞いたことあるか尋ねたところ、「聞いたことがあり、意味も理解している」が22.3%、「聞いたことはあるが、意味はあまり理解していない」が25.8%、「聞いたことはあるが、意味はほとんど理解していない」が10.7%で、合わせた「聞いたことがある」が58.8%に対し、「聞いたことがない」が40.6%となっている。

年代別にみると、「聞いたことがある」と答えた人の割合は、60代以上で7割を超えているが、その他の年代ではそれより少なく、特に40代では4割に満たない。

(年代別)



(「多文化共生」という言葉の認知度 (時系列比較))

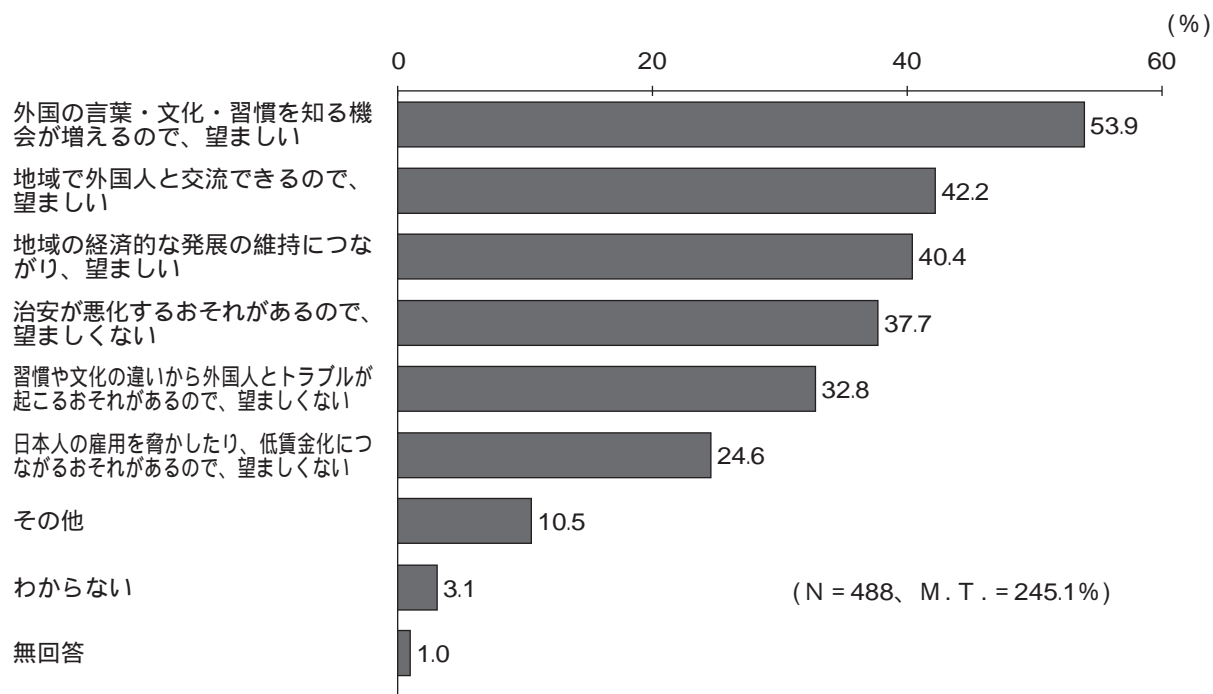


「多文化共生社会」という言葉を聞いたことがある方は、平成18年10月に行った調査では、38.1%、平成22年10月に行った調査では57.8%でした。「多文化共生社会」という言葉の認知度は高まっていますが、より広く認知されるように引き続き積極的にPRしていきたいと考えています。

(地域振興部国際課多文化共生推進室)

問9 愛知県に在住している外国人は現在約20万人で、東京都、大阪府に次いで全国で3番目に多い都道府県となっていますが、外国人が多いことについてどう思いますか。

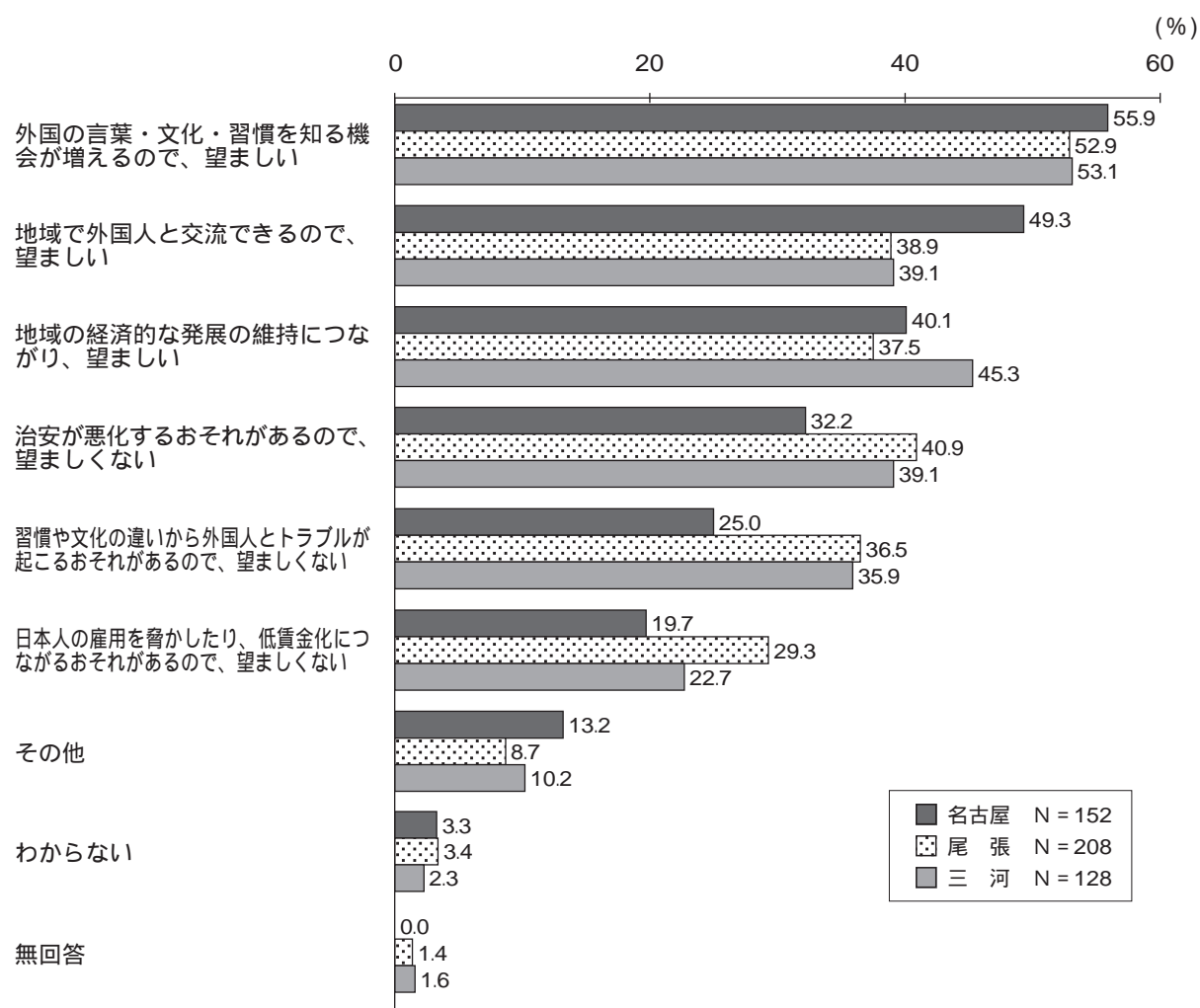
(回答はいくつでも)



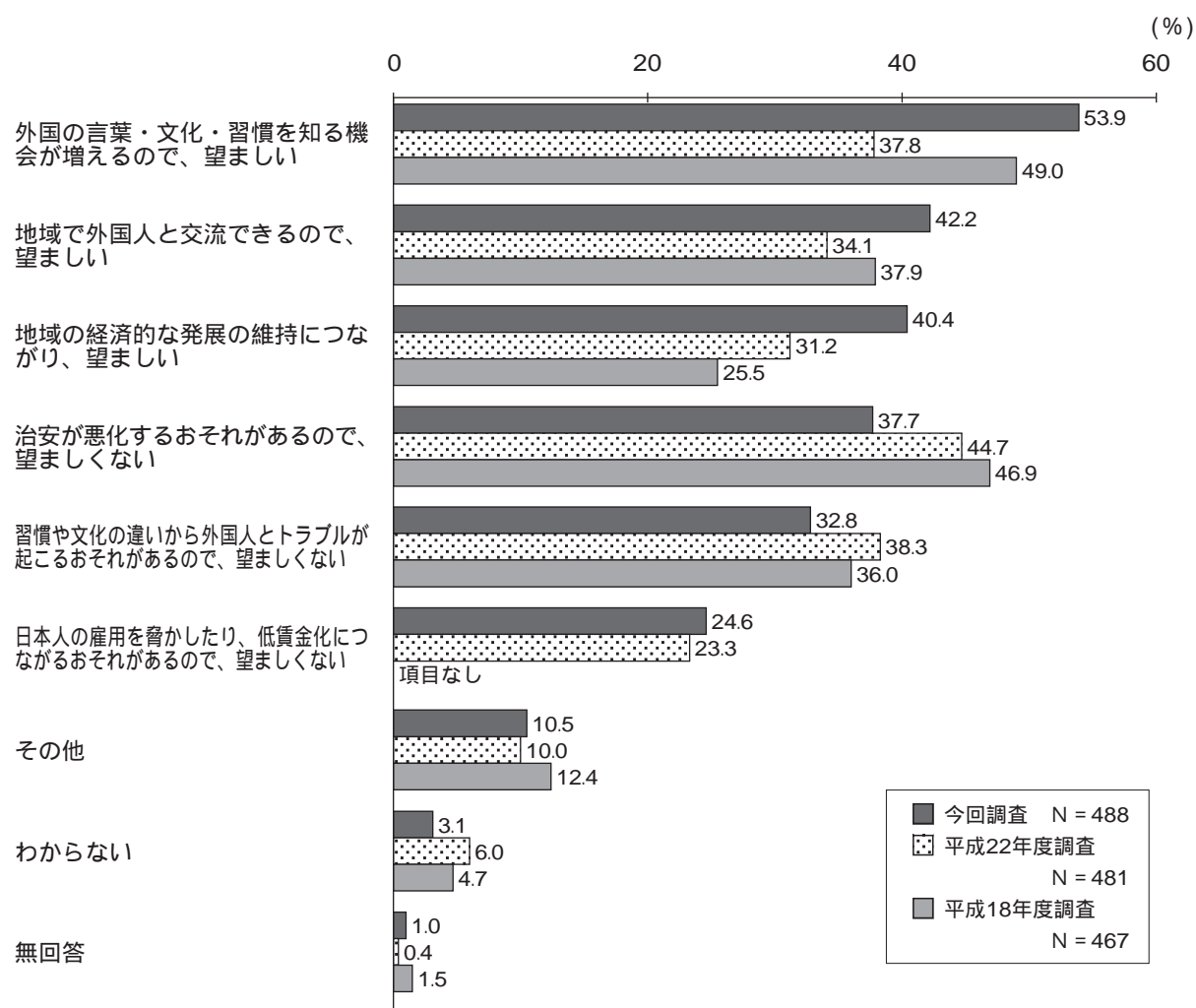
外国人が多いことについてどう思うか尋ねたところ、「外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増えるので、望ましい」が53.9%、「地域で外国人と交流できるので、望ましい」が42.2%、「地域の経済的な発展の維持につながり、望ましい」が40.4%、「治安が悪化するおそれがあるので、望ましくない」が37.7%などとなっている。

地域別にみると、他の地域と比較して、名古屋地域では「地域で外国人と交流できるので、望ましい」と答えた人の割合が高く、尾張地域では「日本人の雇用を脅かしたり、低賃金化につながるおそれがあるので、望ましくない」、三河地域では「地域の経済的な発展の維持につながり、望ましい」と答えた人の割合が高くなっている。

(地域別)



(本県に外国人が多いことをどう思うか (時系列比較))



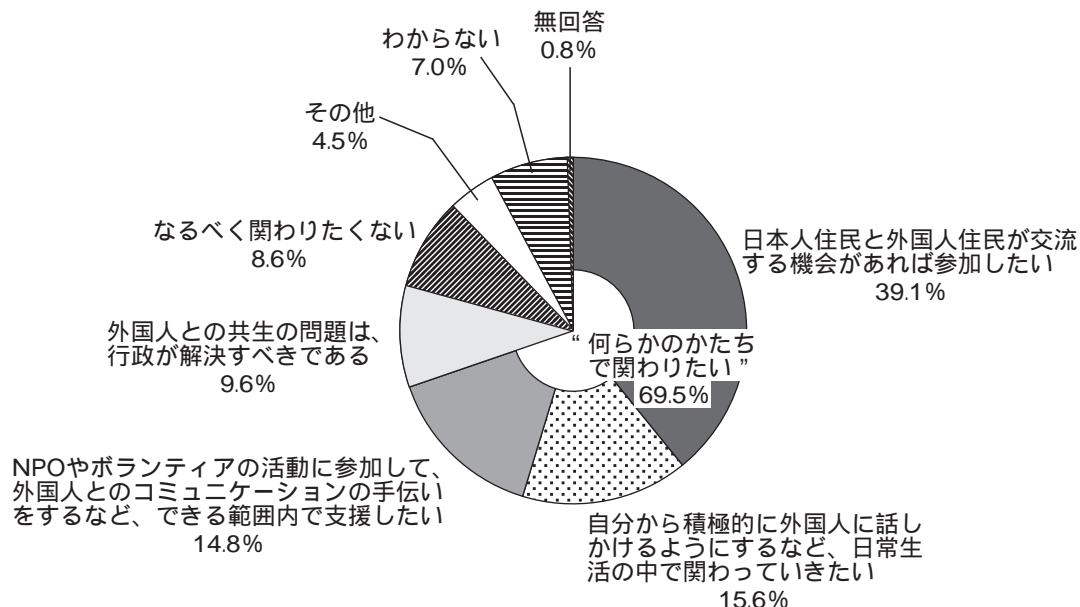
平成22年10月の調査では、本県に外国人が多いことを望ましいと考える方よりも、望ましくないと考える方の割合の合計が多くなっていましたが、今回の調査では、本県に外国人が多いことを望ましいと考える方の割合の合計が多くなっています。これまで以上に多文化共生社会づくりに対する普及啓発を行い、理解を深めていただくよう取り組んでいきます。

(地域振興部国際課多文化共生推進室)



問10 今後、外国人も安心して暮らせ活躍できる地域社会としていくために、あなたはどのようにしたいと思いますか。(回答は1つ)

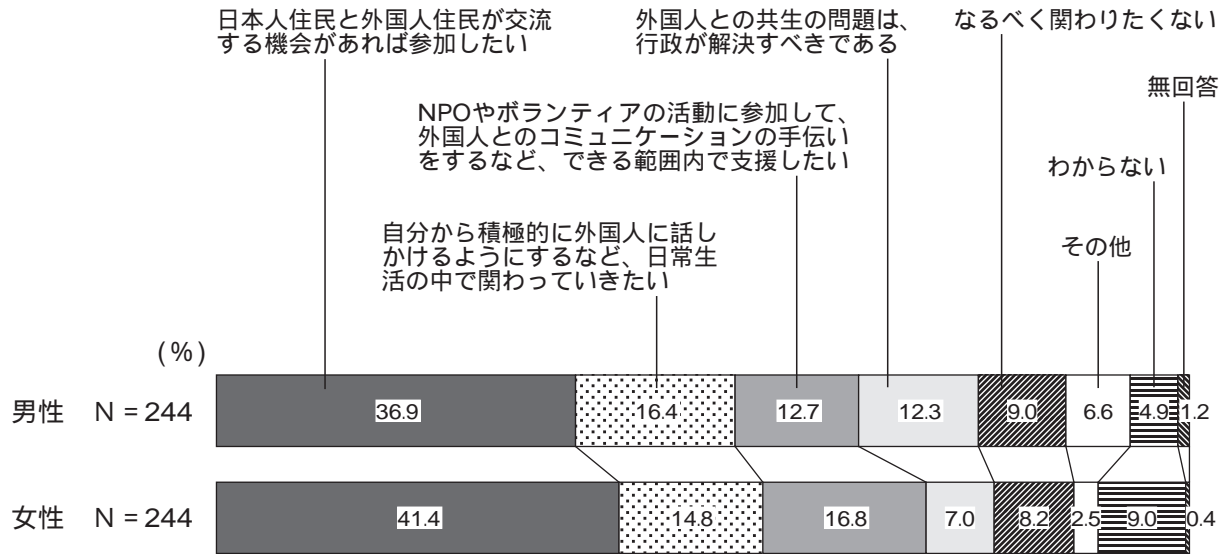
N = 488



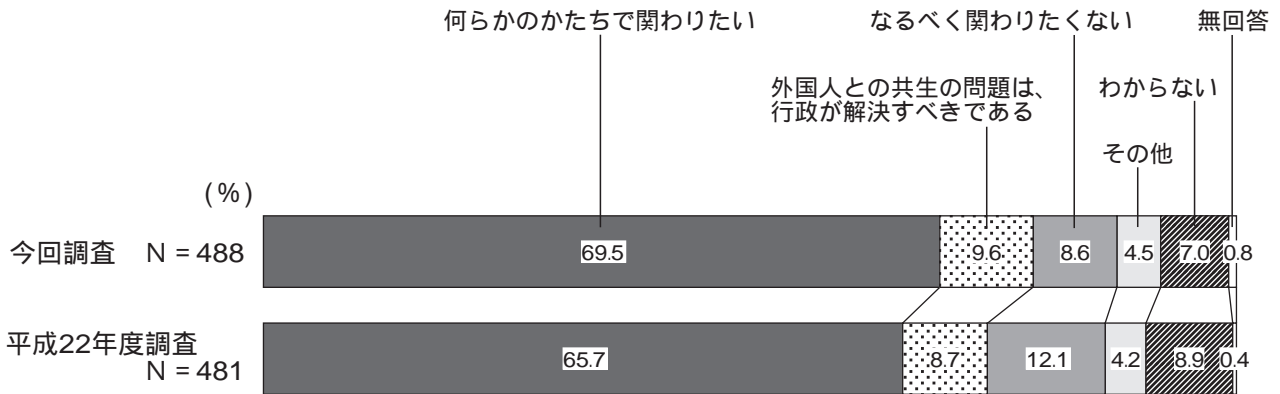
今後、外国人も安心して暮らせ活躍できる地域社会としていくために、あなたはどのようにしたいと思うか尋ねたところ、「日本人住民と外国人住民が交流する機会があれば参加したい」が39.1%、「自分から積極的に外国人に話しかけるようにするなど、日常生活の中で関わっていききたい」が15.6%、「NPOやボランティアの活動に参加して、外国人とのコミュニケーションの手伝いをするなど、できる範囲内で支援したい」が14.8%、「外国人との共生の問題は、行政が解決すべきである」が9.6%などとなっている。

男女別にみると、「日本人住民と外国人住民が交流する機会があれば参加したい」や「NPOやボランティアの活動に参加して、外国人とのコミュニケーションの手伝いをするなど、できる範囲内で支援したい」と答えた人の割合は、男性より女性の方が高く、「外国人との共生の問題は、行政が解決すべきである」と答えた人の割合は、女性より男性の方が高くなっている。

(男女別)



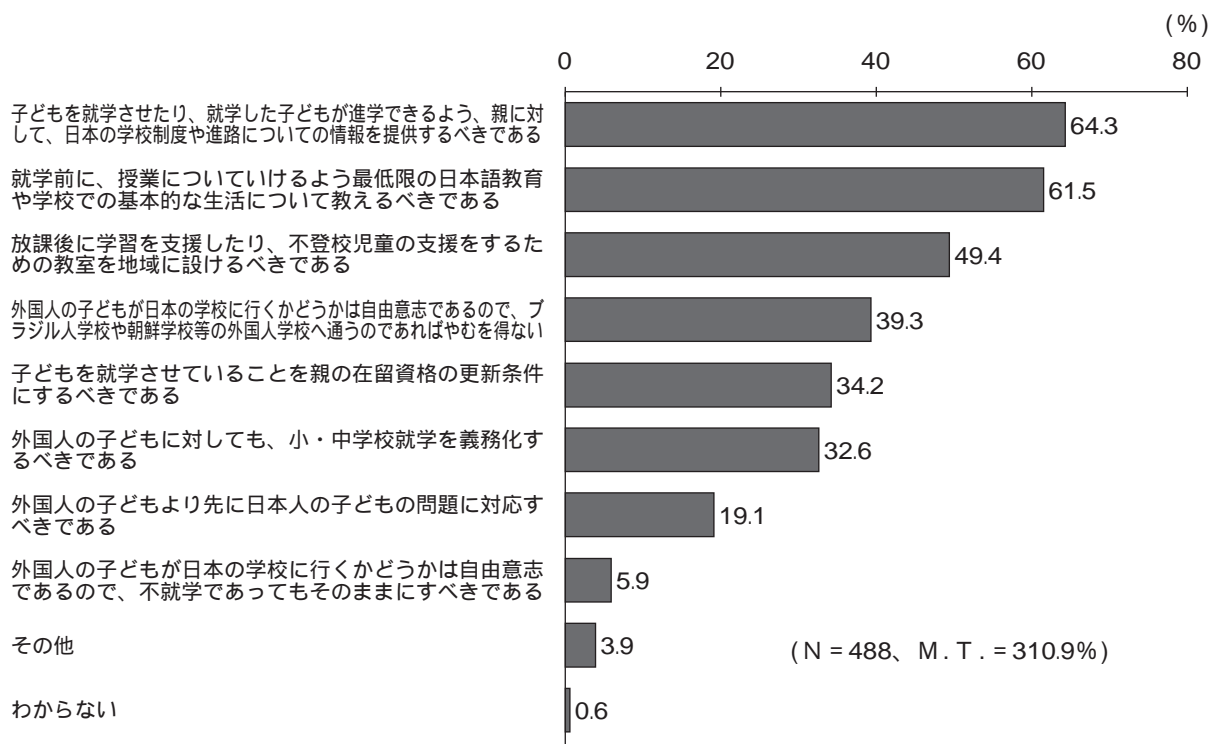
(外国人も安心して暮らせ活躍できる地域社会としていくために (時系列比較))



外国人が安心して暮らせ活躍できる地域社会にしていくために、「何らかのかたちで関わりたい」と考える方が7割程度いますが、関わっていくことに消極的な考えを持つ方も2割程度います。多文化共生社会づくりを推進するためには、県民の方の協力が不可欠と考えており、日本人住民と外国人住民が交流する機会を設けたり、NPO等の活動の支援を行っていききたいと考えています。

(地域振興部国際課多文化共生推進室)

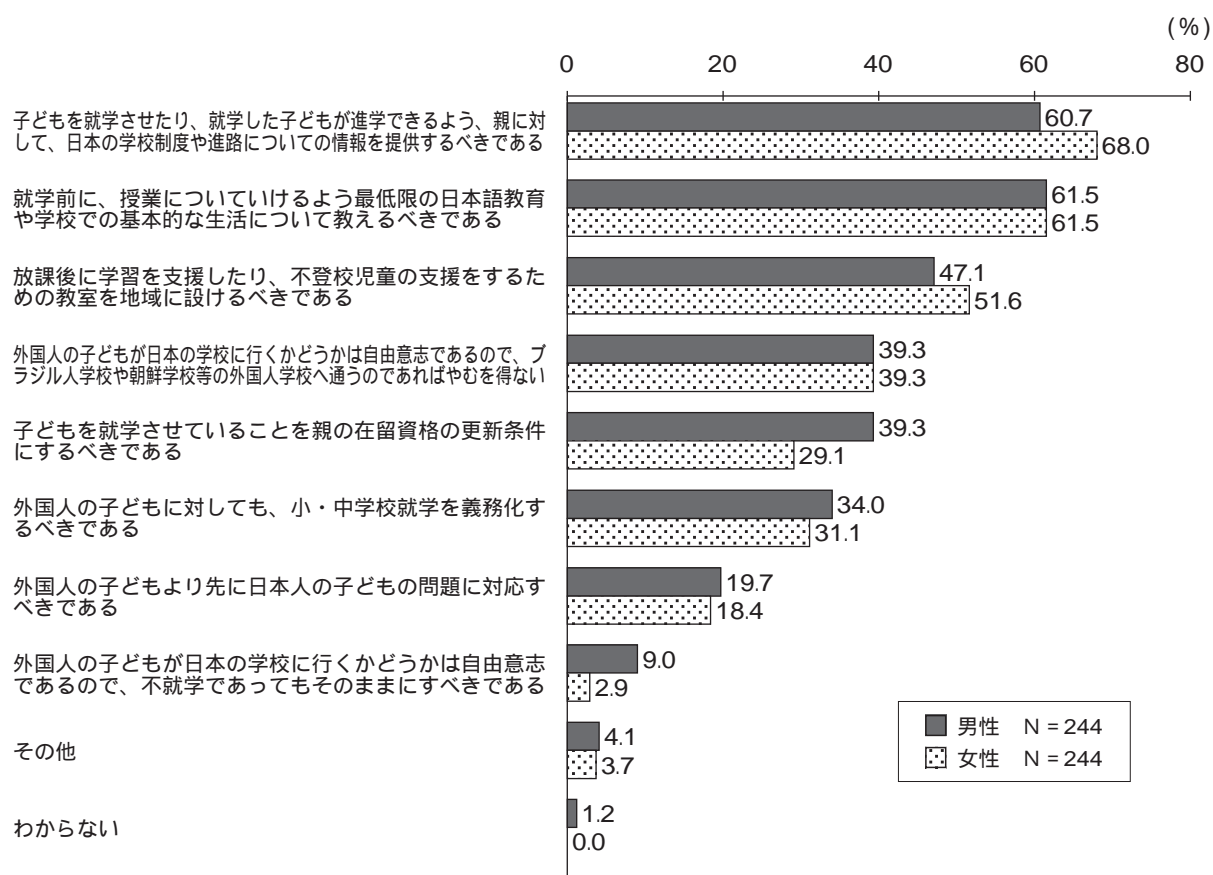
問11 外国人の子どもで、日本の小学校や中学校に通わなかったり、通っていても勉強についていけず、進学できないなどの問題が起きています。こうした問題に対して、あなたは、どう思いますか。(回答はいくつでも)



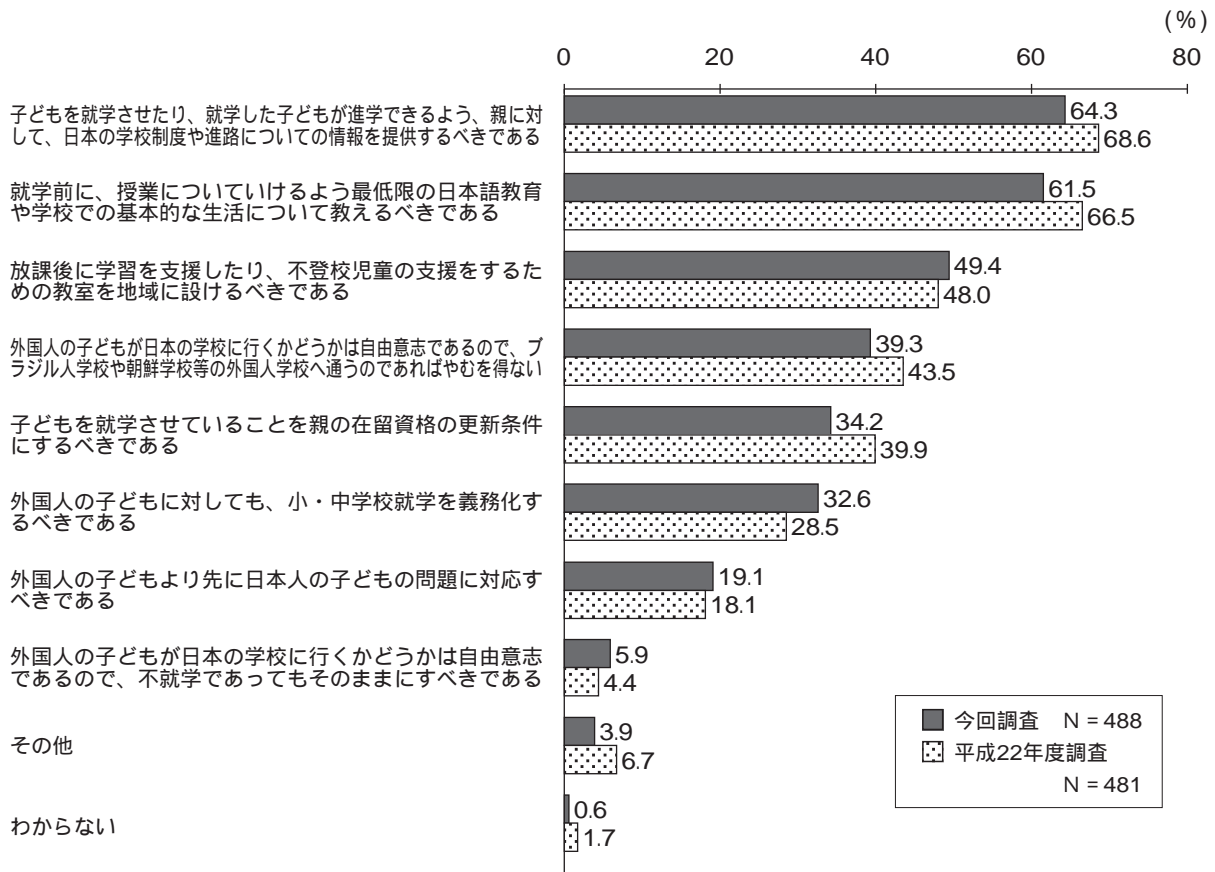
外国人の子どもで、日本の小学校や中学校に通わなかったり、通っていても勉強についていけず、進学できないなどの問題に対して、どう思うか尋ねたところ、「子どもを就学させたり、就学した子どもが進学できるよう、親に対して、日本の学校制度や進路についての情報を提供するべきである」が64.3%、「就学前に、授業についていけるよう最低限の日本語教育や学校での基本的な生活について教えるべきである」が61.5%、「放課後に学習を支援したり、不登校児童の支援をするための教室を地域に設けるべきである」が49.4%、「外国人の子どもが日本の学校に行くかどうかは自由意志であるので、ブラジル人学校や朝鮮学校等の外国人学校へ通うのであればやむを得ない」が39.3%などとなっている。

男女別にみると、「子どもを就学させたり、就学した子どもが進学できるよう、親に対して、日本の学校制度や進路についての情報を提供するべきである」と答えた人の割合は、男性より女性の方が高く、「子どもを就学させていることを親の在留資格の更新条件にするべきである」と答えた人の割合は、女性より男性の方が高くなっている。

(男女別)



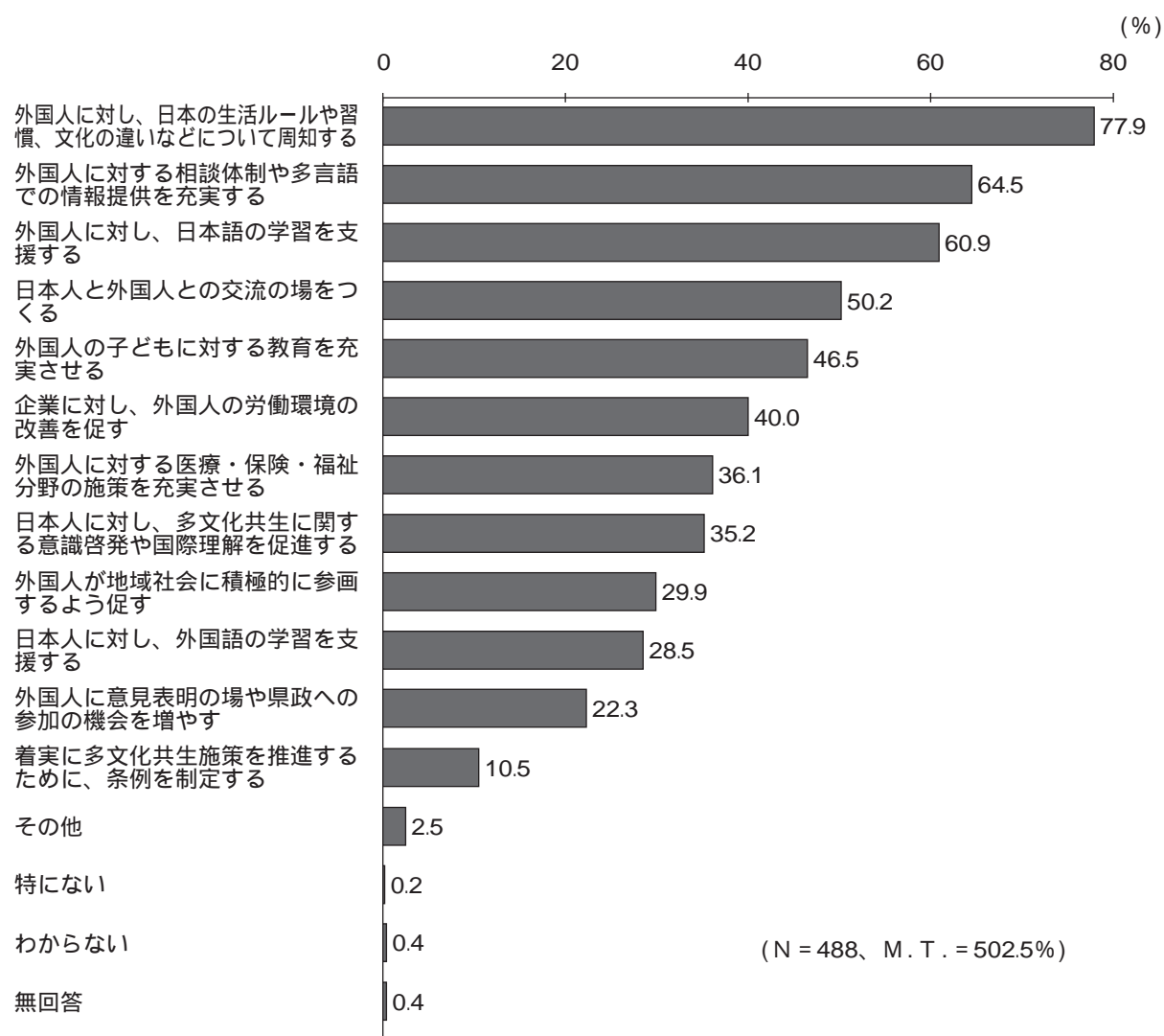
(外国人の子どもの不就学等に対してどう思うか (時系列比較))



子どもたちの教育について、何らかの支援や対応が必要であると考えの方が多くことがうかがえます。県としても、日本語学習の機会をつくることなどにより、子どもたちが日本での生活に適應でき、夢や目標を持てるような環境づくりを支援していきたいと考えています。

(地域振興部国際課多文化共生推進室)

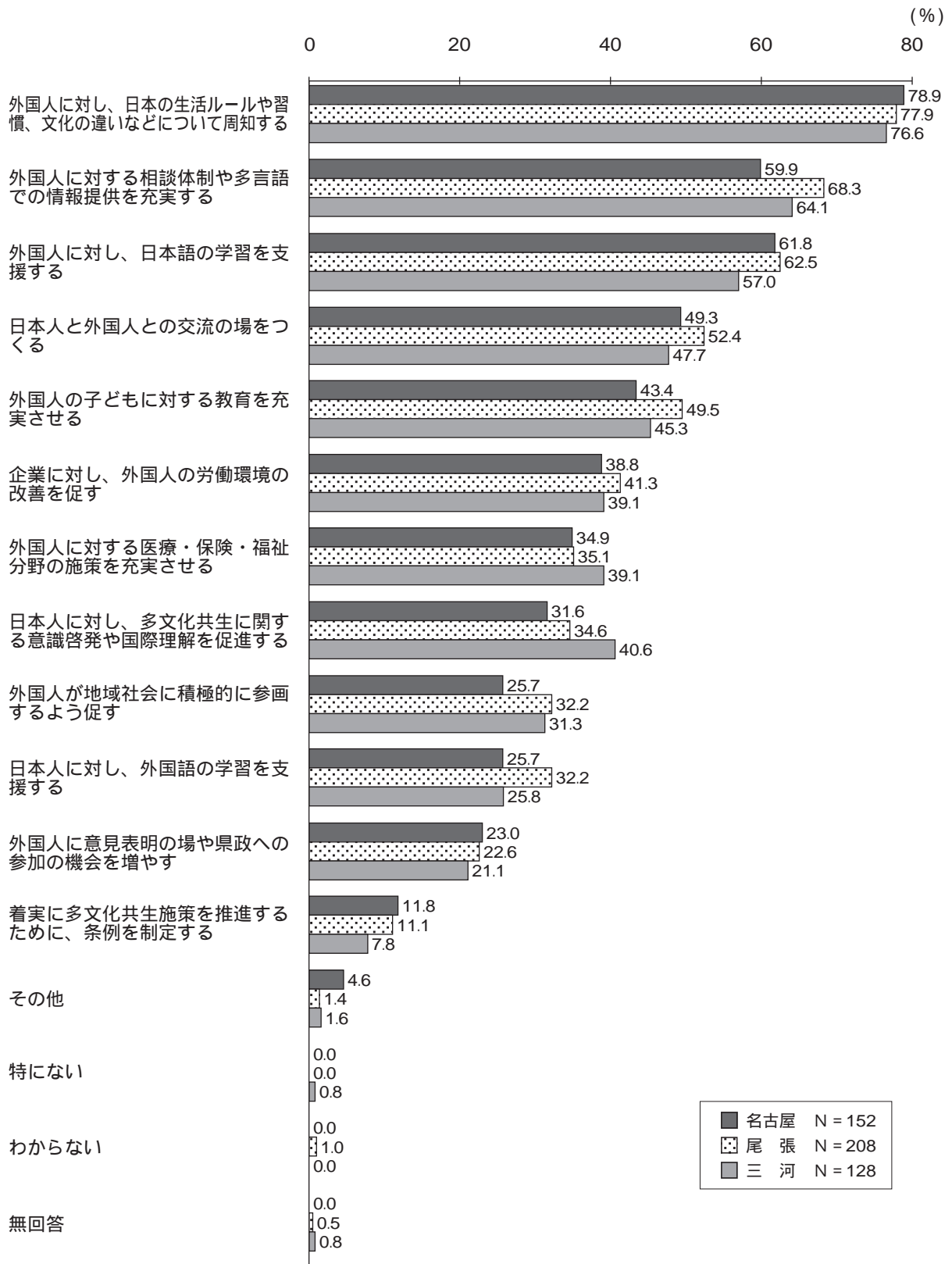
問12 今後、日本人住民と外国人住民がともに暮らしやすい社会にしていくために、県や市町村など行政は、どのような取組に力を入れるべきだと思いますか。(回答はいくつでも)



今後、日本人住民と外国人住民がともに暮らしやすい社会にしていくために、県や市町村など行政は、どのような取組に力を入れるべきだと思うか尋ねたところ、「外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する」が77.9%、「外国人に対する相談体制や多言語での情報提供を充実する」が64.5%で、「外国人に対し、日本語の学習を支援する」が60.9%、「日本人と外国人との交流の場をつくる」が50.2%などとなっている。

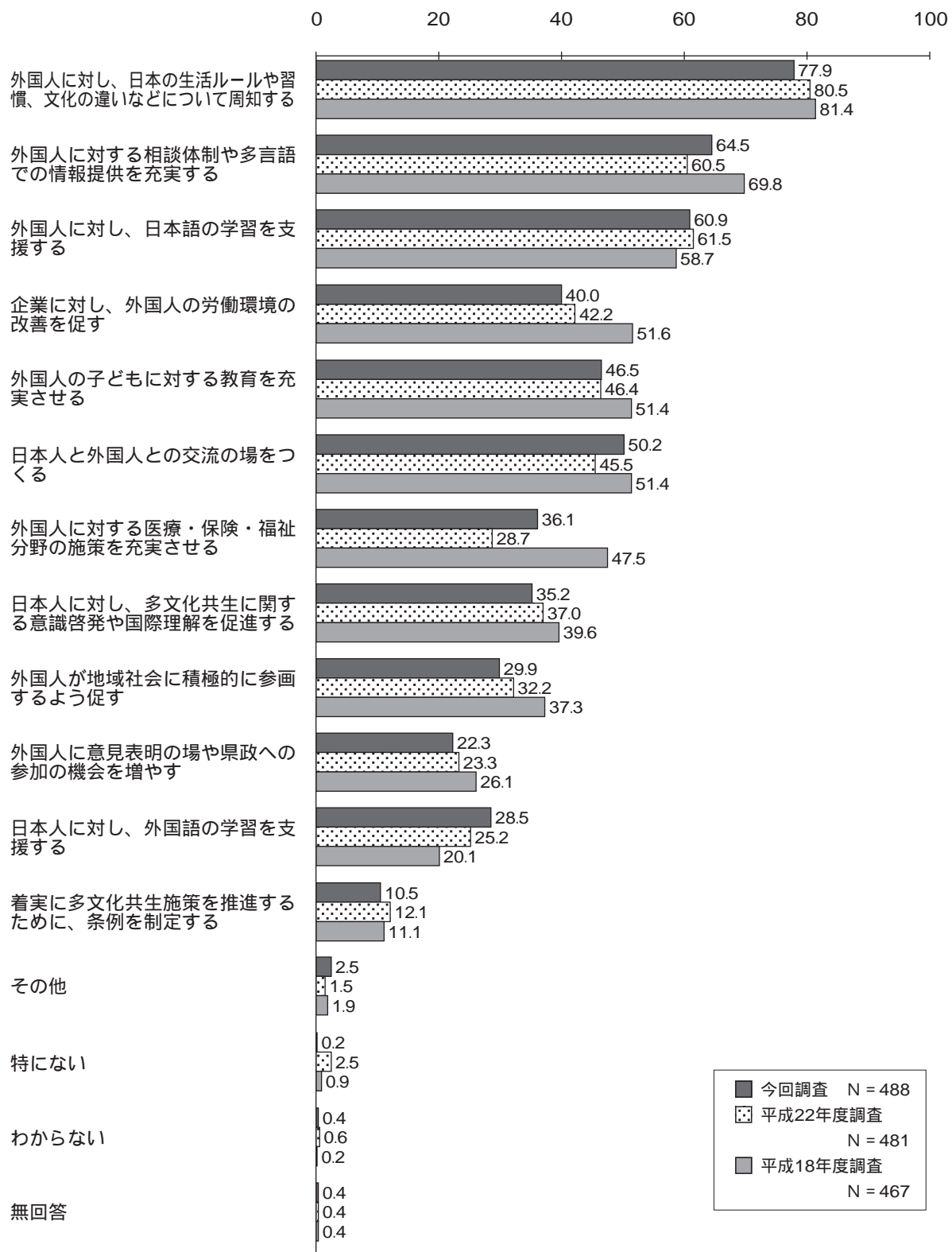
地域別にみると、他の地域と比較して、尾張地域では「外国人に対する相談体制や多言語での情報提供を充実する」と答えた人の割合が高く、三河地域では「外国人に対する医療・保険・福祉分野の施策を充実させる」、「日本人に対し、多文化共生に関する意識啓発や国際理解を促進する」と答えた人の割合が高くなっている。

(地域別)



(多文化共生社会づくりのために行政が力をいれるべき取組 (時系列比較))

(%)



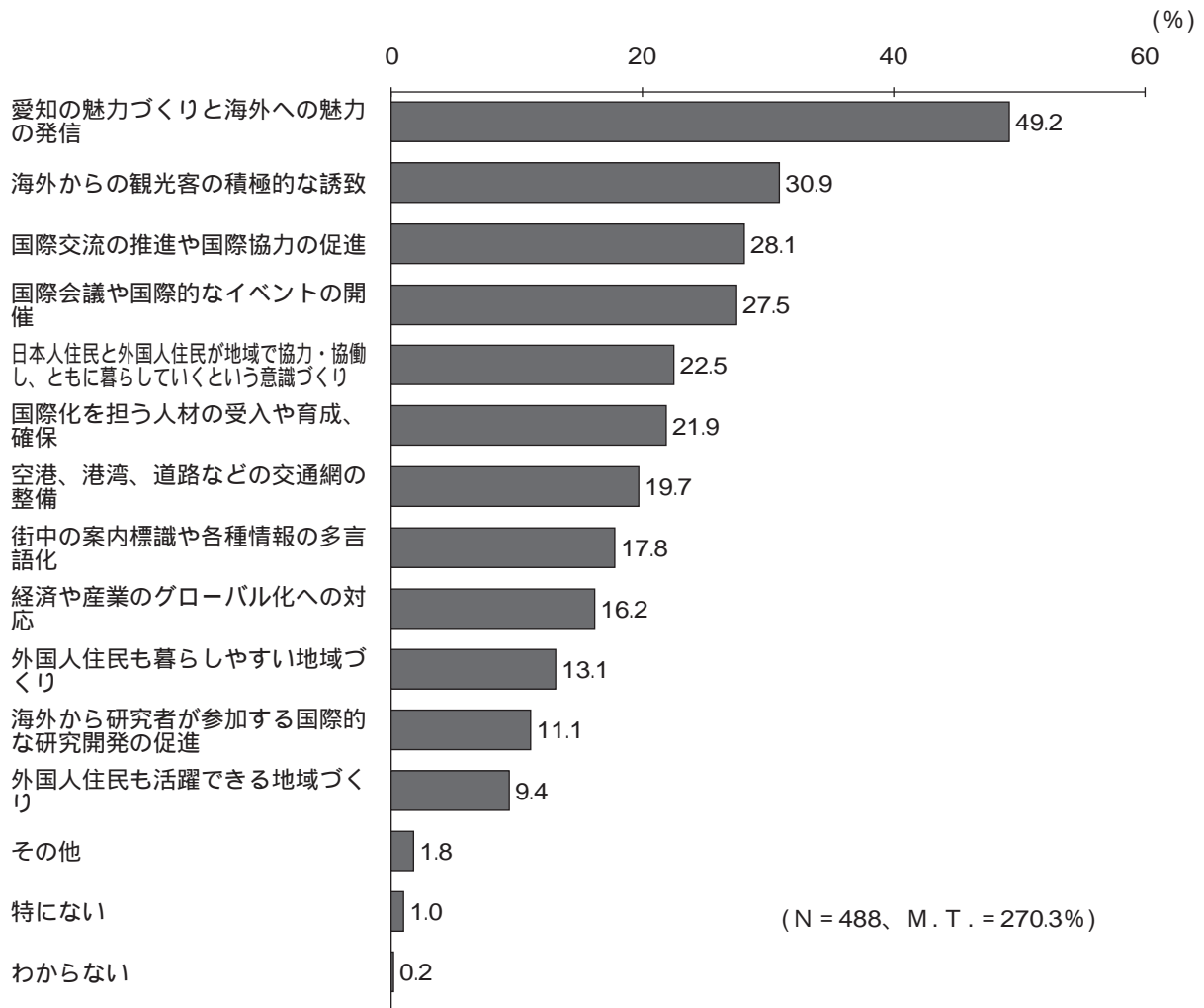
外国人に対する情報提供、日本語の学習、交流の場づくりなど多岐にわたる取組が必要と考える方が多いことがうかがえます。今後も関係機関と連携し、多文化共生社会づくりを推進していきたいと考えています。

(地域振興部国際課多文化共生推進室)



## 6 国際化の推進

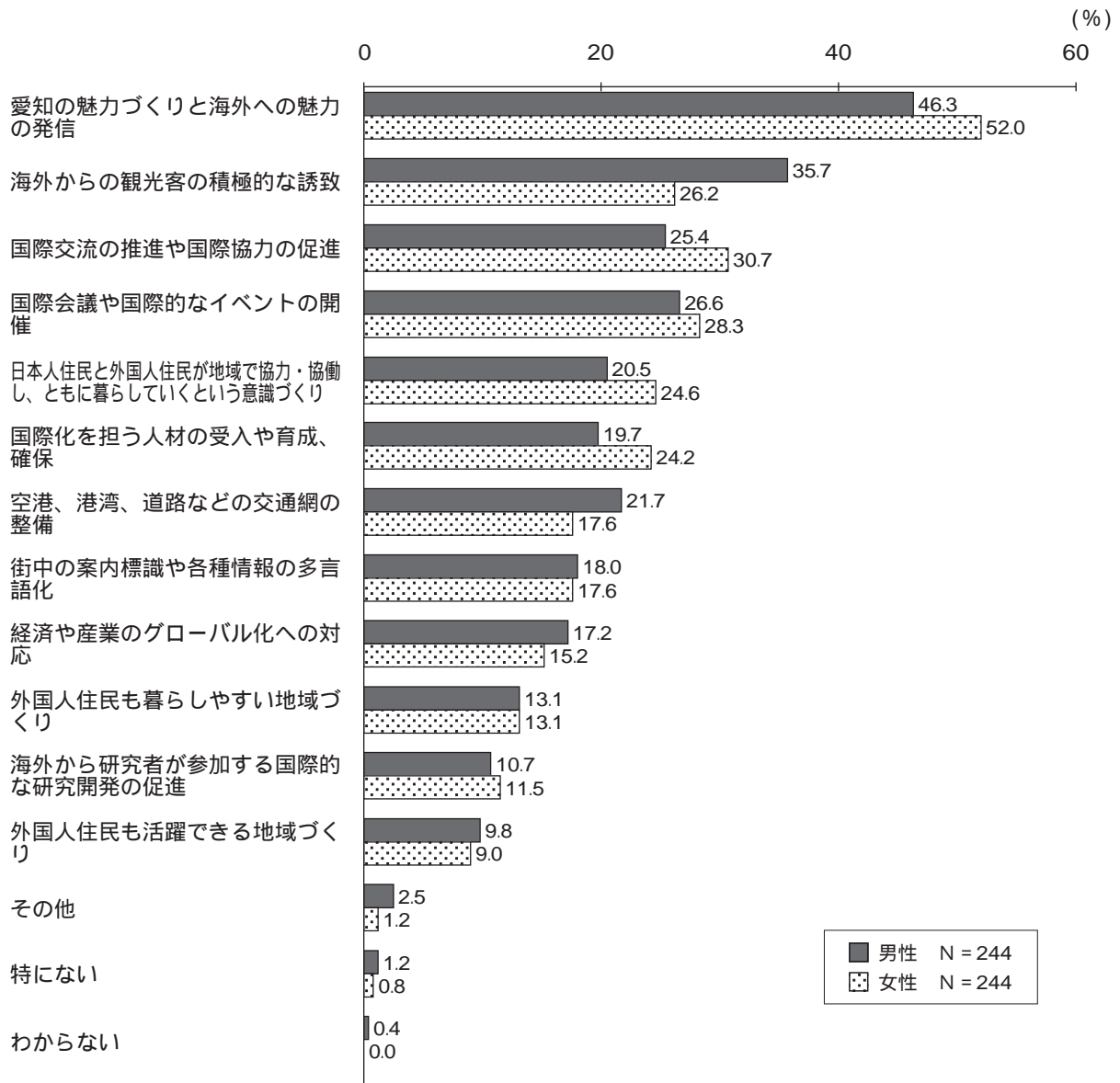
問13 愛知県の国際化を今後さらに進展させるには、どの分野に重点を置くとよいと思いますか。  
(回答は3つまで)



愛知県の国際化を今後さらに進展させるには、どの分野に重点を置くとよいと思うか尋ねたところ、「愛知の魅力づくりと海外への魅力の発信」が49.2%、「海外からの観光客の積極的な誘致」が30.9%、「国際交流の推進や国際協力の促進」が28.1%、「国際会議や国際的なイベントの開催」が27.5%などとなっている。

男女別にみると、「愛知の魅力づくりと海外への魅力の発信」と答えた人の割合は、男性より女性で5.7ポイント高く、「海外からの観光客の積極的な誘致」と答えた人の割合は、女性より男性で9.5ポイント高かった。

(男女別)



「愛知の魅力づくりと海外への魅力の発信」を始め、国際化の推進に向けて、様々な分野に期待されていることがうかがえます。また、問14の自由意見では、多文化共生の地域づくりなどに関して、身近な例も引用していただきながら、様々なご意見をお聞かせいただくことができました。

いただいたご意見を参考に、「世界と闘える愛知」を実現させるため、今後も国際化及び多文化共生の更なる推進に取り組んでいきます。

(地域振興部国際課)

## 7 自由意見

問14 国際化や多文化共生社会の形成の推進についてご意見・ご提案があれば、ご自由に記述してください。

国際化や多文化共生社会の形成の推進について、自由に意見を記入していただいたところ、279件の意見が寄せられた。それらを大別すると次表のとおりであり、以下、その意見の要旨をいくつか例示した。

項 目		件 数	
1	海外への魅力の発信について	17	
2	国際交流（外国人住民との交流を含む。）について	38	
3	グローバル化する産業への対応について	10	
4	国際化を担う人材について	32	
5	多文化共生推進の必要性について	(1) 必要である、やむを得ない	19
		(2) 必要でない、不安の方が大きい	19
6	外国人住民への期待について	23	
7	日本人住民が外国人住民との共生のためにできることについて	24	
8	外国人の子どものための取組について	11	
9	国際化・多文化共生推進に向けた具体的な取組について	57	
10	国際化・多文化共生推進以外の取組の必要性について	16	
11	その他	13	
合 計		279	

### 1 海外への魅力の発信について

海外で交流のある都市を活用し、試験的に情報発信の効果を測定して、情報発信前後の認知度の差を定量化し、よりよい発信方法を探していくとよいと思う。

「LOVE」が入っている地名は世界でもあまりないと思うので、外国人観光客向けには、愛知県に来るとよいことが起こる、のような宣伝の仕方も面白いのではないか。

シリコンバレーが世界中に知られているように、愛知県も、“カーフォレスト”などの名称で、最先端の技術で性能が優れながら自然にも優しい車を生産できる場所として、世界中で知られるようになっていって欲しい。グローバル化を推進するには、外国人や外国企業を受け入れる必要性も出てくるが、自治体も積極的に関わって欲しい。

## 2 国際交流（外国人住民との交流を含む。）について

地域の日本人住民と外国人住民との交流が少ないゆえのトラブルを感じることもあり、お互いの理解を深める交流会やイベントなどの機会をもっと提供して欲しい。

いろいろなどころで文化交流イベントをやっているが、一部の人の参加に限られ、イベントをやっていることも知らない人が多数である。小さい頃から交流できるよう、小学校等でイベントをやり、親子で参加できるようにするとよいのではないか。

まず、「国際化」や「多文化共生社会」がなぜ必要なのかをもっと県民一人ひとりにPRすべきだと思う。また、「草の根運動」のようにできるだけ一般の多くの方が参加できるイベントをNPOなどと合同で開催するとよい。自分の経験から外国人との交流の基本は個人的なつながりからできあがっていくものだと思う。

愛知県は、製造業が盛んな地域で、研修生や実習生として非常に多くの外国人が働き、暮らしているが、日本人との交流があまりなく、もったいないと感じている。彼らがより働きやすく、暮らしやすい環境を整えていけば、外国人同士の情報網から愛知県で働きたい、住みたいということに繋がっていくと思う。このようなことから愛知県の存在をアピールできれば、自然といろいろな外国人が愛知県にやって来て、観光や産業の発展につながるのではないか。

## 3 グローバル化する産業への対応について

小さな町工場は、海外に目を向けて進出するための基盤やノウハウが全くなく、国内産業が停滞している現在では、休業や倒産の道を歩みかねない。国や県が、ISOを取得するための費用を負担したり、人材育成の講座や研修を行ったりする必要があると思う。

日本での雇用が減少している中で、国際競争力のある新しい産業を創造し、育成することが最優先に求められていると思う。

## 4 国際化を担う人材について

大人になってからの意識改革は難しいので、学校教育の中で、国際化などについても学べるのが望ましい。

外国の方を通して外国の文化等を理解すると同時に、日本人として、愛知県民として日本や愛知県の文化や歴史を大人も子どもも十分に理解することがまず必要だと思う。

国際化を推進するには、県レベルでも読む・書く・話すが誰にでも理解できるように英語教育を施すべき。

県内には、中国語教育に強い大学もあるので、今後は県としても英語だけでなく中国語教育にも

力を入れてもらいたい。

高校や大学で留学を経験しても、帰国後能力を発揮できずもったいない人材が多くいると思うので、そのような方たちが、少しでも日本へ来る外国人の手助けができれば、より一層住みやすい街になると思う。

最近の円高により日本の企業は海外への進出を促進しており、今までのように労働者の海外からの受入は減少傾向になると思われる。したがって、今のうちに海外に関心のある外国人学生や技術習得希望者を積極的に受け入れ、外国人と日本人が交流・接触する場をつくるべきだと思う。一方で、日本の学生や若者がどんどん海外留学できるよう、民間・行政が英知を絞り支援する必要があると思う。

少子高齢化社会が進んでいるので、介護への外国人採用をより推進すべき。介護資格試験のハードルが高すぎて、有為な人材を失っていると感じる。

## 5 多文化共生推進の必要性について

### (1) 必要である、やむを得ない

「多文化共生社会」という言葉を初めて聞いた。もっと、ニュースや広報誌等で特集を組むなどして、広く県民に知らせる機会を設けるとよいと思う。

多文化共生社会は地域活性化のみならず国内の人材育成にも繋がると思う。

日本の少子高齢化を考えると多文化共生社会は歓迎するべきである。ただ、受け入れる外国人には日本人をよく理解してもらう必要がある。世界のよいところは取り入れながら、世界のモデルとなるよう、取り組んでいきたい。

現在の情報化社会の中では、遅かれ早かれ企業のみならず地域のグローバル化も進んでいき、国際化や多文化共生社会は避けて通れないと思う。愛知県には他県に先駆けてグローバル化を進めていって欲しいと思う。

外国人の割合が高い市町村の問題として考えるのではなく、県内のそれ以外の市町村でも、外国人と多文化共生についてもっと考えていく必要があると思う。

### (2) 必要でない、不安の方が大きい

日本人同士でも交流してないのに外国人との交流など必要に迫られなければ無理だと思う。日本人でも関わりたくない人もいる。誰であっても適度な距離感が必要だろう。

外国人は犯罪のイメージが強く、個人的にあまり受け入れられない。

治安が悪くなったりトラブルが起こったりするので、外国人をこれ以上受け入れるべきではない

と思うし、今は不況で仕事も少なくなっているので本国に帰ってもらうようにするべきだと思う。

## 6 外国人住民への期待について

日本人が外国に住む場合でも、外国人が日本に住む場合でも、受け入れられる側の人が少なくともその国の言語とルールを知っておくことは仲良く生活していくために不可欠だと思う。

外国人の人達に日本の生活ルールや文化などを理解してもらうことはとても大切なことだと思う。日本の良さを理解していただきたいと思う。

外国人が増えて治安が悪くなっている団地があり、困っていると聞くと、外国人には日本で住むための最低の文化・習慣を教えるべきだと思う。日本の習慣や文化を知らないで生活するというのは外国人にとっても苦痛ではないか。

長く生活するつもりであれば、日本のことをよく知ってから来て欲しいし、日本語も早く覚えて欲しい。知らないことがあっても、近くの人や地域の人たちに尋ねれば、みんな親切に対応してくれると思うので、早く日本に溶け込めると思う。

地域の祭りなどの催しに外国人が参加するのも心に残り、良い影響があると思う。

## 7 日本人住民が外国人住民との共生のためにできることについて

ものづくりを主体とした中京地区は、国内でもかなり国際化に力を入れてきたのではないかと。ただ、それを受け入れる県民のレベルがついていってないのではないかとと思う。

愛知県に在住している外国人は多く、日常でもよく見かける。外国の言葉や文化・習慣を知る機会が増えるので望ましいと思う反面、犯罪などが多く起きていることも確かなので、迷う気持ちもある。しかし、多文化共生社会を目指して自分にできることがあれば積極的に参加していきたい。

日本人が外国人を差別せず、共に地域で生きる地域づくりを実現するためには日本人の意識改革が必要だと思う。外国人の文化・技術・特色を生かすことができれば外国人が定着し慣れ親しむ事ができるのではないかと。

外国人、日本人はお互いが相手をよく知らないために、怖がっている面があると思う。無理のないよう急がず時間をかけて、触れ合うことのできる場所を設けていくことが大切だと思う。また、外国人だからといって特別視してはいけないとも思う。

## 8 外国人の子どものための取組について

学校に通わない外国人の子どもがいるというのは非常に大きな問題であると思う。不就学は治安



の悪化につながるおそれがあるのではないか。日本にいるなら日本の子どもたちと同じように学校に通うべきだと思うので、子どもの就学は親の在留資格の条件にするべきだと思う。

外国人、日本人にかかわらず、教育は大切だと思う。特に小さい時の教育は大事だと思う反面、親が育った環境の違いはなかなか難しいと思う。親が日本語を理解できないので、小学校の子供のプリントが読めない、提出物が難しいなど、現場は大変だと思う。

外国人の子ども不就学は、将来的に治安の悪化につながる可能性がある。日本人と同じ環境で、障害なく勉強することが、共生の第一歩である。

犯罪やトラブルを抑制するためにも、外国人の子どもが何らかの形で「教育」を受けるべきだと思う。

外国人労働者が増え、保育園や小学校へ入る子どもの数も増える中で、外国人の子どもたちがスムーズに日本の学校に慣れる事ができるよう、対応する教員の数も増やした方がよいと思う。

## 9 国際化・多文化共生推進に向けた具体的な取組について

国際化や多文化共生社会について、意識していない人が多いと思うので、そういった人にこの問題について考えてもらう機会とするセミナーや講演会などの場があれば意識も高まるのではないかと。

ブラジル人の集住地区で犯罪が多いとのうわさが広がったり、外国人住民が日本語を話すことができなかつたりすることが、外国人と日本人の共生に不安をあおっているのだと思う。外国人住民がどのような活躍をしているかや、ポルトガル語、英語、中国語等を公立学校教育で少しでも取り入れると不安が緩和されると思う。

役所でのサービスが外国人には優しくないと思う。外国語対応できる職員が少なく、外国人に発行する保険証や通知などが日本語表記だけなのはとても不便だと思う。もう少し外国人の立場にたって分かりやすいように改善すべき。

街中の案内表示、広報誌、各種申請用紙やそれを扱う職員など、身の回りのほとんどが日本語での表記・案内となっている。ハード面での目に見える変化があれば、自然と愛知県を訪れたり滞在したりする外国人も増え、県民の多文化共生に対する意識も養われていくのではないかと。

国際化や多文化共生の推進には、言葉がネックになると思うので、行政、県民、企業が協力してこの課題を解決する取組を行う必要がある。

外国人の多いエリアには、外国人対応の職員を配置すれば日本人、外国人でも相談でき、その場での問題解決がお互いの交流につながっていくのではないかと。現状は日本人が避けているように思われるので、行政による橋渡しが必要だと思う。

万博の時、外国人を身近に感じた。少子高齢化社会で経済的な発展をするには、外国人と共生するしか道はないと思うので、国際交流施設を各市町村に設置して、共感してくれる人を増やすとよいと思う。

国際色豊かな愛知県は、既に日本人のためだけの県ではなく、海外から来た人たちのための県で

もあると思う。海外から来た人たちが、日本語などでスムーズに愛知県で生活できるよう、特に教育分野などにおいて行政の支援が必要になると思う。

## 10 国際化・多文化共生推進以外の取組の必要性について

経済力が落ちている中、グローバル化の推進よりも県民の雇用を守り、人材を育成する事業に予算を回して欲しい。

世界中でグローバル化が進んでいるため、日本も愛知県も更なるグローバル化を推進させる必要性は理解できるが、現在の雇用状況を鑑みると、まずは若年者の雇用を確保し、国内の地盤を強化することが先決ではないかと思う。

## 11 その他

県内に在住外国人が20万人もいるとは知らなかった。

自分の周辺には外国人が少ないため、多文化共生に対する認識はこれまであまりなかった。

入手可能なら、一度「あいち多文化共生プラン」を読みたい。



## 質問と回答 (単位...「総数」:人、「総数」以外:%、四捨五入により合計は必ずしも100%にならない)

### 1 海外への魅力の発信

問1 海外にも誇ることのできる愛知県の魅力は何だと思いますか。(回答は3つまで)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	488	244	244	152	208	128	74	98	87	73	156
1 世界的に事業展開する企業が多く立地していること	58.4	52.0	64.8	55.9	55.8	65.6	62.2	61.2	63.2	58.9	51.9
2 製造業を中心とした産業が集積していること	47.3	54.5	40.2	50.0	50.5	39.1	51.4	42.9	48.3	42.5	50.0
3 工業だけではなく、商業や農林水産業も盛んで、バランスのとれた産業構造となっていること	25.6	26.6	24.6	19.1	24.0	35.9	17.6	23.5	25.3	37.0	25.6
4 海や山に囲まれ豊かな自然に恵まれている、武将のふるさとであり歴史遺産が多くある、ユニークな食文化を擁しているなど自然・歴史・文化等の資源が豊富であること	48.8	44.3	53.3	40.8	52.4	52.3	47.3	60.2	43.7	42.5	48.1
5 大都市圏であり、生活に必要な施設が揃っているが、物価が安く、公共交通機関が発達しているなど生活しやすいこと	17.0	15.2	18.9	25.0	15.9	9.4	16.2	19.4	19.5	16.4	14.7
6 「自然の叡智」をテーマとした愛知万博や、その成果・理念を継承したCOP10の開催など、環境分野において熱心に取り組んでいること	22.3	23.0	21.7	22.4	21.2	24.2	21.6	22.4	19.5	13.7	28.2
7 県民が万博を経験している、グローバル企業に勤める人や帰国子女が多いなど、国際感覚をもつ人材が豊富であること	5.3	4.9	5.7	4.6	5.8	5.5	10.8	4.1	2.3	6.8	4.5
8 地理的に日本の中心に位置するとともに、国際空港・港湾や鉄道・道路などの交通網が整備されており、海外からも国内各地からもアクセスが容易であること	38.1	40.2	36.1	35.5	41.8	35.2	28.4	29.6	33.3	41.1	49.4
9 その他	1.2	1.6	0.8	1.3	1.4	0.8	1.4	2.0	0.0	2.7	0.6
10 特になし	0.6	0.8	0.4	1.3	0.0	0.8	0.0	1.0	0.0	0.0	1.3
11 わからない	0.8	0.0	1.6	0.7	1.0	0.8	0.0	0.0	2.3	1.4	0.6
無回答	1.0	1.6	0.4	2.0	0.5	0.8	0.0	0.0	1.1	2.7	1.3

問2 問1で答えていただいた、愛知県の魅力を海外にPRするには、どのような方法がよいと思いますか。(回答は3つまで)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	488	244	244	152	208	128	74	98	87	73	156
1 県内に留学経験のある外国人を活用する	21.9	23.8	20.1	28.3	17.3	21.9	17.6	26.5	14.9	21.9	25.0
2 海外事務所等を活用して積極的な海外広報を実施する	57.4	57.4	57.4	50.0	61.5	59.4	41.9	48.0	52.9	58.9	72.4
3 ウェブサイトで発信する多言語情報を充実させる	24.6	25.0	24.2	27.6	23.1	23.4	21.6	23.5	24.1	31.5	23.7
4 ソーシャルメディア(ブログ、ツイッター、フェイスブックなど)等を活用して情報を発信する	26.6	25.8	27.5	21.7	28.4	29.7	37.8	21.4	23.0	26.0	26.9
5 YouTubeなどで発信する動画情報を充実させる	18.2	17.2	19.3	17.1	17.3	21.1	18.9	21.4	20.7	19.2	14.1
6 海外からの観光客を積極的に誘致する	51.4	56.6	46.3	48.7	51.9	53.9	51.4	52.0	49.4	45.2	55.1
7 国際会議や国際的なイベントを開催する	47.5	47.1	48.0	47.4	49.0	45.3	45.9	36.7	48.3	43.8	56.4
8 その他	2.7	2.5	2.9	2.6	3.4	1.6	4.1	5.1	1.1	1.4	1.9
9 特にない	1.2	2.5	0.0	1.3	0.5	2.3	2.7	1.0	1.1	1.4	0.6
10 わからない	2.0	1.2	2.9	2.0	2.4	1.6	1.4	2.0	3.4	4.1	0.6
無回答	0.2	0.0	0.4	0.0	0.5	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0

## 2 国際交流・国際協力

問3 愛知県が海外との交流や国際協力を行うにあたり、どの分野に重点を置くとよいと思いますか。

(回答は3つまで)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代 以上
総数	488	244	244	152	208	128	74	98	87	73	156
1 オーストラリア・ビクトリア州や中国・江蘇省との友好提携事業の充実や提携先の拡大	24.6	27.9	21.3	25.0	26.0	21.9	21.6	20.4	24.1	20.5	30.8
2 愛知万博で実施された一市町村一國フレンドシップ事業の成果継承など、市町村の国際交流事業の促進	45.5	45.1	45.9	38.2	48.6	49.2	43.2	44.9	55.2	45.2	41.7
3 国際交流協会やNPO(非営利団体)など民間の国際交流団体の支援	27.5	31.6	23.4	25.0	25.0	34.4	18.9	22.4	17.2	38.4	35.3
4 あいちトリエンナーレ2010の成果を継承した芸術や文化交流の推進	19.1	17.6	20.5	22.4	19.2	14.8	28.4	17.3	25.3	13.7	14.7
5 子どもの学校間交流など教育やスポーツ交流の推進	44.3	39.8	48.8	42.1	47.1	42.2	36.5	57.1	47.1	38.4	41.0
6 海外からの観光客の積極的な誘致	37.5	43.9	31.1	39.5	35.6	38.3	43.2	42.9	33.3	32.9	35.9
7 環境問題等に対応した友好提携相手国等との共同プロジェクトの実施	21.1	19.7	22.5	17.1	24.5	20.3	20.3	16.3	14.9	24.7	26.3
8 領事館など外国政府機関・国際機関の誘致や、それら機関との交流の推進	13.1	14.3	11.9	17.8	12.5	8.6	10.8	6.1	8.0	12.3	21.8
9 発展途上国や海外の大規模災害被災地域への国際協力や国際貢献	23.6	24.6	22.5	22.4	24.0	24.2	23.0	21.4	20.7	23.3	26.9
10 その他	1.6	1.6	1.6	3.3	1.0	0.8	1.4	1.0	1.1	2.7	1.9
11 特にない	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.8	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0
12 わからない	1.4	0.0	2.9	1.3	0.0	3.9	2.7	1.0	2.3	2.7	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

### 3 グローバル化する産業への対応

問4 産業のグローバル化に対応するために、どのような取組が必要だと思いますか。

(回答は3つまで)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代 以上
総数	488	244	244	152	208	128	74	98	87	73	156
1 海外進出支援や知的財産保護など地元企業のグローバル化を支援する	61.3	58.6	63.9	55.3	67.3	58.6	55.4	53.1	69.0	69.9	60.9
2 外国(外資系)企業を誘致するために、さらなる優遇制度を創設する	20.9	25.0	16.8	17.1	23.6	21.1	23.0	25.5	17.2	13.7	22.4
3 国際競争力のある新しい産業を創造し、育成する	44.3	52.0	36.5	43.4	43.3	46.9	36.5	46.9	39.1	41.1	50.6
4 国際ビジネスに対応できる人材を育成する	51.8	48.4	55.3	56.6	49.5	50.0	56.8	51.0	49.4	47.9	53.2
5 空港、港湾、道路などの交通網や国際的な企業団地、物流基地を整備する	42.8	48.4	37.3	45.4	42.8	39.8	43.2	31.6	36.8	39.7	54.5
6 愛知県産農林水産物の輸出を促進する	24.0	19.7	28.3	21.7	22.1	29.7	27.0	26.5	13.8	27.4	25.0
7 その他	2.9	3.7	2.0	1.3	3.8	3.1	0.0	2.0	2.3	4.1	4.5
8 特にない	1.4	2.0	0.8	1.3	1.4	1.6	1.4	2.0	1.1	1.4	1.3
9 わからない	1.6	1.6	1.6	0.7	1.4	3.1	1.4	2.0	2.3	2.7	0.6
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

#### 4 国際化を担う人材

問5 国際的に活躍できる若者を育成するためには、どのような取組が必要だと思いますか。

(回答は3つまで)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代 以上
総数	488	244	244	152	208	128	74	98	87	73	156
1 学校での外国語教育や国際理解教育のカリキュラムや授業の質を充実させる	60.0	59.8	60.2	55.9	65.9	55.5	44.6	58.2	66.7	65.8	62.2
2 学校に外国語指導助手を多く配置する	15.6	17.6	13.5	11.2	14.9	21.9	20.3	18.4	25.3	11.0	8.3
3 幼少期から英語教育を行うようにする	26.6	25.8	27.5	22.4	27.4	30.5	25.7	32.7	31.0	24.7	21.8
4 外国語教育や国際理解教育の指導者を育成する	16.6	19.3	13.9	13.8	19.2	15.6	14.9	18.4	16.1	15.1	17.3
5 県内の大学と海外の大学との学術提携の拡大や学生同士の交流の推進などを支援する	33.6	31.1	36.1	33.6	34.1	32.8	40.5	27.6	32.2	38.4	32.7
6 若者の海外留学を促進する	33.8	33.6	34.0	38.2	27.4	39.1	39.2	46.9	21.8	27.4	32.7
7 海外への留学経験者や独立行政法人国際協力機構(JICA)の国際協力ボランティア経験者が帰国後就職しやすい環境を整備するなど、海外経験者が活躍できる環境の整備を行う	41.8	40.6	43.0	43.4	48.1	29.7	41.9	31.6	32.2	52.1	48.7
8 国際交流協会やNPOなど民間の国際交流団体が実施する語学ボランティア登録制度や国際理解教育に関するセミナー開催などの事業を支援する	19.1	19.7	18.4	19.1	18.3	20.3	24.3	13.3	14.9	16.4	23.7
9 帰国子女や外国人留学生、JICAの国際協力ボランティア経験者などを活用し、外国への興味と理解を促進する取組を行う	14.1	13.9	14.3	15.1	14.9	11.7	4.1	9.2	12.6	8.2	25.6
10 その他	5.7	6.6	4.9	9.2	3.8	4.7	4.1	4.1	5.7	6.8	7.1
11 特にない	1.0	0.8	1.2	0.0	0.5	3.1	2.7	2.0	0.0	1.4	0.0
12 わからない	0.4	0.0	0.8	0.7	0.0	0.8	0.0	1.0	1.1	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問6 少子高齢化により労働人口が減少する中で、日本の企業が競争力を維持するためには、高度外国人材を積極的に受け入れ、活用するべきだとの意見がありますが、どのような取組が必要だと思いますか。(回答は3つまで)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	488	244	244	152	208	128	74	98	87	73	156
1 高度外国人材を雇用したい地元企業の受入環境の整備を支援する	56.4	57.4	55.3	59.2	56.3	53.1	47.3	53.1	55.2	58.9	62.2
2 高度外国人材の就労・永住ビザ要件を緩和する	30.9	33.6	28.3	25.7	30.8	37.5	29.7	32.7	28.7	27.4	33.3
3 高度外国人材を確保するため、医療や相談窓口などの生活環境を整備したり、各種行政手続きを簡素化したりする	53.5	58.2	48.8	48.0	57.2	53.9	52.7	43.9	50.6	56.2	60.3
4 高度外国人材の子どもの教育環境を整備するため、インターナショナルスクールを充実・設立する	40.0	40.2	39.8	42.1	40.9	35.9	41.9	34.7	37.9	26.0	50.0
5 企業やNPOと協力して、高度外国人材の求人情報等の提供を促進する	31.8	32.0	31.6	32.9	31.3	31.3	33.8	28.6	21.8	28.8	39.7
6 高度外国人材が起業するための支援を行う	10.2	11.5	9.0	9.9	12.0	7.8	8.1	16.3	8.0	8.2	9.6
7 その他	4.5	6.1	2.9	4.6	4.3	4.7	4.1	2.0	5.7	11.0	2.6
8 特にない	4.7	5.7	3.7	6.6	3.4	4.7	8.1	4.1	6.9	6.8	1.3
9 わからない	3.9	2.0	5.7	3.3	2.4	7.0	2.7	6.1	4.6	2.7	3.2
無回答	0.2	0.0	0.4	0.0	0.0	0.8	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0

問7 少子高齢化により労働人口が減少する中で、人的交流・経済発展の両面から、母国と日本双方の言語と文化に精通し、大学等で専門的知識・技術を習得する外国人留学生の受入を促進し、愛知県のために活躍できるようにするには、どのような取組が必要だと思いますか。(回答は3つまで)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	488	244	244	152	208	128	74	98	87	73	156
1 より多くの優秀な外国人留学生が愛知県を留学先として選ぶように、ウェブサイトでの情報発信や海外で行われるPRイベントへの参加などを積極的に行う	43.6	43.0	44.3	44.1	43.8	43.0	44.6	40.8	41.4	43.8	46.2
2 外国人留学生が地域の祭り・行事や県内の産業・観光視察ツアーに参加し、愛知県の魅力を体感することにより、母国の後輩に留学先としての愛知県の魅力を伝えることができるよう支援する	41.4	43.4	39.3	39.5	38.5	48.4	39.2	41.8	34.5	39.7	46.8
3 外国人留学生を地域の学校に派遣し、学校の児童・生徒と交流し、愛知県への愛着を深めることにより、母国の後輩に留学先としての愛知県の魅力を伝えることができるよう支援する	32.6	34.4	30.7	27.6	37.0	31.3	28.4	34.7	20.7	43.8	34.6
4 外国人留学生が地域の家庭でのホームステイで県民と直接交流し、愛知県への愛着を深めることにより、母国の後輩に留学先としての愛知県の魅力を伝えることができるよう支援する	30.5	28.7	32.4	27.0	34.1	28.9	29.7	36.7	32.2	27.4	27.6
5 奨学金制度を充実させたり、宿舎を整備したりするなど、外国人留学生が生活しやすい環境を整備する	36.5	35.2	37.7	34.9	36.5	38.3	35.1	36.7	32.2	34.2	40.4
6 地元企業での就職を希望する外国人留学生に対して、インターンシップや就職セミナーを開催するなど、地元企業への就職支援を行う	40.2	38.5	41.8	42.1	42.3	34.4	40.5	33.7	40.2	32.9	47.4
7 地元での起業を希望する外国人留学生を支援する	6.8	8.6	4.9	9.9	5.3	5.5	4.1	9.2	6.9	1.4	9.0
8 母国へ帰国した留学経験者による愛知県と母国との架け橋となるような活動を支援する	17.8	17.6	18.0	15.8	18.3	19.5	18.9	16.3	14.9	17.8	19.9
9 その他	3.1	4.9	1.2	3.9	3.4	1.6	1.4	2.0	3.4	6.8	2.6
10 特になし	2.9	3.3	2.5	2.6	2.9	3.1	5.4	2.0	6.9	1.4	0.6
11 わからない	1.2	0.8	1.6	0.7	0.5	3.1	0.0	1.0	3.4	1.4	0.6
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## 5 多文化共生社会

問8 今までに、「多文化共生社会」という言葉を聞いたことがありますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	488	244	244	152	208	128	74	98	87	73	156
1 聞いたことがあり、意味も理解している	22.3	23.8	20.9	27.6	17.8	23.4	21.6	16.3	17.2	19.2	30.8
2 聞いたことはあるが、意味はあまり理解していない	25.8	22.5	29.1	25.7	26.9	24.2	27.0	27.6	13.8	21.9	32.7
3 聞いたことはあるが、意味はほとんど理解していない	10.7	11.9	9.4	5.3	11.1	16.4	14.9	12.2	8.0	11.0	9.0
4 聞いたことがない	40.6	41.0	40.2	40.1	44.2	35.2	36.5	42.9	58.6	47.9	27.6
無回答	0.6	0.8	0.4	1.3	0.0	0.8	0.0	1.0	2.3	0.0	0.0

問9 愛知県に在住している外国人は現在約20万人で、東京都、大阪府に次いで全国で3番目に多い都道府県となっていますが、外国人が多いことについてどう思いますか。(回答はいくつでも)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	488	244	244	152	208	128	74	98	87	73	156
1 外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増えるので、望ましい	53.9	55.3	52.5	55.9	52.9	53.1	55.4	52.0	49.4	47.9	59.6
2 地域で外国人と交流できるので、望ましい	42.2	47.1	37.3	49.3	38.9	39.1	39.2	36.7	40.2	38.4	50.0
3 地域の経済的な発展の維持につながり、望ましい	40.4	45.9	34.8	40.1	37.5	45.3	37.8	34.7	37.9	28.8	51.9
4 治安が悪化するおそれがあるので、望ましくない	37.7	43.4	32.0	32.2	40.9	39.1	47.3	44.9	35.6	37.0	30.1
5 習慣や文化の違いから外国人とトラブルが起こるおそれがあるので、望ましくない	32.8	36.1	29.5	25.0	36.5	35.9	33.8	32.7	32.2	43.8	27.6
6 日本人の雇用を脅かしたり、低賃金化につながるおそれがあるので、望ましくない	24.6	28.3	20.9	19.7	29.3	22.7	32.4	20.4	20.7	24.7	25.6
7 その他	10.5	9.4	11.5	13.2	8.7	10.2	6.8	11.2	11.5	8.2	12.2
8 わからない	3.1	1.6	4.5	3.3	3.4	2.3	0.0	3.1	4.6	5.5	2.6
無回答	1.0	1.6	0.4	0.0	1.4	1.6	0.0	1.0	1.1	4.1	0.0



問10 今後、外国人も安心して暮らせ活躍できる地域社会としていくために、あなたはどうしたいと思いますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	488	244	244	152	208	128	74	98	87	73	156
1 自分から積極的に外国人に話しかけるようにするなど、日常生活の中で関わっていききたい	15.6	16.4	14.8	16.4	13.5	18.0	14.9	11.2	17.2	17.8	16.7
2 日本人住民と外国人住民が交流する機会があれば参加したい	39.1	36.9	41.4	38.2	42.8	34.4	40.5	48.0	40.2	34.2	34.6
3 NPOやボランティアの活動に参加して、外国人とのコミュニケーションの手伝いをするなど、できる範囲内で支援したい	14.8	12.7	16.8	15.8	13.5	15.6	18.9	12.2	8.0	13.7	18.6
4 なるべく関わりたくない	8.6	9.0	8.2	8.6	6.3	12.5	10.8	8.2	12.6	8.2	5.8
5 外国人との共生の問題は、行政が解決すべきである	9.6	12.3	7.0	7.9	11.5	8.6	8.1	8.2	8.0	12.3	10.9
6 その他	4.5	6.6	2.5	6.6	2.9	4.7	0.0	6.1	4.6	2.7	6.4
7 わからない	7.0	4.9	9.0	5.3	9.1	5.5	6.8	6.1	8.0	8.2	6.4
無回答	0.8	1.2	0.4	1.3	0.5	0.8	0.0	0.0	1.1	2.7	0.6

問11 外国人の子どもで、日本の小学校や中学校に通わなかったり、通っていても勉強についていけず、進学できないなどの問題が起きています。こうした問題に対して、あなたは、どう思いますか。

(回答はいくつでも)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代 以上
総数	488	244	244	152	208	128	74	98	87	73	156
1 就学前に、授業についていけるよう最低限の日本語教育や学校での基本的な生活について教えるべきである	61.5	61.5	61.5	64.5	58.2	63.3	59.5	63.3	58.6	58.9	64.1
2 子どもを就学させたり、就学した子どもが進学できるよう、親に対して、日本の学校制度や進路についての情報を提供するべきである	64.3	60.7	68.0	59.9	64.4	69.5	68.9	62.2	58.6	61.6	67.9
3 放課後に学習を支援したり、不登校児童の支援をするための教室を地域に設けるべきである	49.4	47.1	51.6	50.0	48.1	50.8	45.9	50.0	39.1	49.3	56.4
4 子どもを就学させていることを親の在留資格の更新条件にするべきである	34.2	39.3	29.1	32.2	32.2	39.8	36.5	32.7	27.6	28.8	40.4
5 外国人の子どもに対しても、小・中学校就学を義務化するべきである	32.6	34.0	31.1	36.8	30.3	31.3	40.5	35.7	33.3	27.4	28.8
6 外国人の子どもが日本の学校に行くかどうかは自由意志であるので、ブラジル人学校や朝鮮学校等の外国人学校へ通うのであればやむを得ない	39.3	39.3	39.3	36.8	39.9	41.4	35.1	34.7	44.8	30.1	45.5
7 外国人の子どもが日本の学校に行くかどうかは自由意志であるので、不就学であってもそのままにすべきである	5.9	9.0	2.9	6.6	5.8	5.5	2.7	3.1	9.2	8.2	6.4
8 外国人の子どもより先に日本人の子どもの問題に対応すべきである	19.1	19.7	18.4	16.4	19.7	21.1	21.6	17.3	21.8	23.3	15.4
9 その他	3.9	4.1	3.7	5.9	2.9	3.1	4.1	1.0	5.7	5.5	3.8
10 わからない	0.6	1.2	0.0	0.0	1.0	0.8	1.4	0.0	1.1	1.4	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問12 今後、日本人住民と外国人住民がともに暮らしやすい社会にしていくために、県や市町村など行政は、どのような取組に力を入れるべきだと思いますか。(回答はいくつでも)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	488	244	244	152	208	128	74	98	87	73	156
1 外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する	77.9	77.5	78.3	78.9	77.9	76.6	73.0	75.5	79.3	76.7	81.4
2 外国人に対する相談体制や多言語での情報提供を充実する	64.5	59.8	69.3	59.9	68.3	64.1	60.8	67.3	63.2	61.6	66.7
3 外国人に対し、日本語の学習を支援する	60.9	63.9	57.8	61.8	62.5	57.0	59.5	59.2	59.8	57.5	64.7
4 企業に対し、外国人の労働環境の改善を促す	40.0	41.0	38.9	38.8	41.3	39.1	44.6	38.8	34.5	38.4	42.3
5 外国人の子どもに対する教育を充実させる	46.5	48.0	45.1	43.4	49.5	45.3	52.7	50.0	41.4	42.5	46.2
6 日本人と外国人との交流の場をつくる	50.2	53.3	47.1	49.3	52.4	47.7	51.4	58.2	42.5	43.8	51.9
7 外国人に対する医療・保険・福祉分野の施策を充実させる	36.1	36.5	35.7	34.9	35.1	39.1	33.8	36.7	28.7	28.8	44.2
8 日本人に対し、多文化共生に関する意識啓発や国際理解を促進する	35.2	38.9	31.6	31.6	34.6	40.6	25.7	33.7	34.5	27.4	44.9
9 外国人が地域社会に積極的に参画するよう促す	29.9	32.4	27.5	25.7	32.2	31.3	23.0	34.7	35.6	21.9	30.8
10 外国人に意見表明の場や県政への参加の機会を増やす	22.3	21.3	23.4	23.0	22.6	21.1	23.0	21.4	24.1	17.8	23.7
11 日本人に対し、外国語の学習を支援する	28.5	25.4	31.6	25.7	32.2	25.8	41.9	30.6	27.6	19.2	25.6
12 着実に多文化共生施策を推進するために、条例を制定する	10.5	12.3	8.6	11.8	11.1	7.8	17.6	9.2	5.7	9.6	10.9
13 その他	2.5	2.9	2.0	4.6	1.4	1.6	2.7	3.1	2.3	1.4	2.6
14 特にない	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.8	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0
15 わからない	0.4	0.4	0.4	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.4	0.0
無回答	0.4	0.4	0.4	0.0	0.5	0.8	0.0	1.0	0.0	1.4	0.0

## 6 国際化の推進

問13 愛知県の国際化を今後さらに進展させるには、どの分野に重点を置くとよいと思いますか。

(回答は3つまで)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代 以上
総数	488	244	244	152	208	128	74	98	87	73	156
1 愛知の魅力づくりと海外への魅力の発信	49.2	46.3	52.0	54.6	48.1	44.5	55.4	44.9	55.2	46.6	46.8
2 国際交流の推進や国際協力の促進	28.1	25.4	30.7	25.7	32.7	23.4	24.3	27.6	26.4	34.2	28.2
3 空港、港湾、道路などの交通インフラの整備	19.7	21.7	17.6	17.8	20.2	21.1	24.3	23.5	23.0	17.8	14.1
4 国際会議や国際的なイベントの開催	27.5	26.6	28.3	24.3	29.3	28.1	29.7	20.4	31.0	27.4	28.8
5 海外からの観光客の積極的な誘致	30.9	35.7	26.2	30.3	31.3	31.3	35.1	32.7	24.1	30.1	32.1
6 街中の案内標識や各種情報の多言語化	17.8	18.0	17.6	19.7	15.4	19.5	13.5	17.3	11.5	11.0	26.9
7 経済や産業のグローバル化への対応	16.2	17.2	15.2	13.8	17.3	17.2	23.0	15.3	16.1	13.7	14.7
8 海外から研究者が参加する国際的な研究開発の促進	11.1	10.7	11.5	9.2	11.1	13.3	9.5	8.2	9.2	13.7	13.5
9 国際化を担う人材の受入や育成、確保	21.9	19.7	24.2	19.1	21.6	25.8	20.3	21.4	18.4	21.9	25.0
10 日本人住民と外国人住民が地域で協力・協働し、ともに暮らしていくという意識づくり	22.5	20.5	24.6	22.4	23.1	21.9	14.9	27.6	16.1	23.3	26.3
11 外国人住民も活躍できる地域づくり	9.4	9.8	9.0	7.2	11.5	8.6	8.1	9.2	4.6	6.8	14.1
12 外国人住民も暮らしやすい地域づくり	13.1	13.1	13.1	12.5	14.4	11.7	9.5	15.3	14.9	13.7	12.2
13 その他	1.8	2.5	1.2	2.0	1.0	3.1	1.4	2.0	2.3	2.7	1.3
14 特にない	1.0	1.2	0.8	1.3	0.0	2.3	0.0	0.0	2.3	2.7	0.6
15 わからない	0.2	0.4	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

平成23年度第5回県政モニターアンケート報告書

「 国 際 化 の 推 進 」  
平 成 2 4 年 1 月 発 行  
愛 知 県 知 事 政 策 局 広 報 広 聴 課  
名 古 屋 市 中 区 三 の 丸 三 丁 目 1 番 2 号  
電 話 ( 0 5 2 ) 9 5 4 - 6 1 6 9 ( ダ イ ヤ ル イ ン )

この冊子は、再生紙を使用しています。

